

第2章

民間組織・団体等による 健康福祉のまちづくり (民間協働推進計画)

1. 民間協働推進計画はどのようにまとめられたの？
2. 民間組織・団体等を取りまく状況は？
3. 民間組織・団体等による健康福祉のまちづくりのすがたは？
4. 民間組織・団体等はどんな取り組みをするの？

第2章 民間組織・団体等における健康福祉のまちづくり

1 民間協働推進計画はどのようにまとめられたの？

民間協働推進計画のねらいは？

協働から、有機的につながる方向と可能性を明らかにします。

今後、社会構造の変化から、サービスを利用する方々も多くなり、また、必要なサービスもさらに多様化していくことが予想されます。ここでは、こうした状況の変化に対応していくために、第1章の「身近な地域で健康福祉のまちづくり」にくわえて、福祉に関わる民間組織・団体等が、解決困難な悩みを共有し協働することで、現在取り組んでいること、今後新たに取り組んでいきたいことの方向と可能性を明らかにします。

どうやって意見を集めたの？

市内で活動する582の団体に調査で意見を伺いました。

計画づくりにあたり、市内のボランティアグループ・NPO法人、福祉事業者、セルフヘルプグループ（当事者団体）、医療機関ソーシャルワーカー、企業、商店会の582の団体を対象に、「民間活動に関する地域の健康福祉活動調査」を行い、250の団体から回答をいただきました。

調査で聞いたことは？

- 今、何に取り組んでいるか
- これから、何に取り組もうとしているか
- 活動を通して何を目指しているか
- 何に困っているか
- 市社協に何を期待しているか

調査の目的は？

- 独自に展開している事業・活動の現状と課題を共有
- 今後どんな役割を地域で担おうと考えているのか情報を共有
- 市社協が支援できる事柄の明確化

民間協働推進計画はどのようにとりまとめられたの？

調査で集めた意見をプラットフォームのテーマにまとめました。

地域健康福祉活動計画(民間計画)の策定に向けて、市内で健康福祉に関する活動をしている団体に対して「民間活動に関する地域の健康福祉活動調査」を行い、意見をいただきました。

集計分析の中で、いただいた意見の中でも、特に、「民間組織・団体等が何に困っているか」「民間組織・団体等が市社協へ何を期待しているか」「その他の意見」をもとに、協働によりいかに“だれもが、その人らしく、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち 柏”の実現が可能になるか検討しました。



民間協働推進計画 策定までの流れ

- ①民間活動に関する
地域健康福祉活動調査
- ②集計分析
- ③目標とプラットフォームの検討
- ④市社協の取り組みの検討

計画づくりの体制

計画策定
委員会

協働

特定非営利活動法人

日本環境
倶楽部

市社協

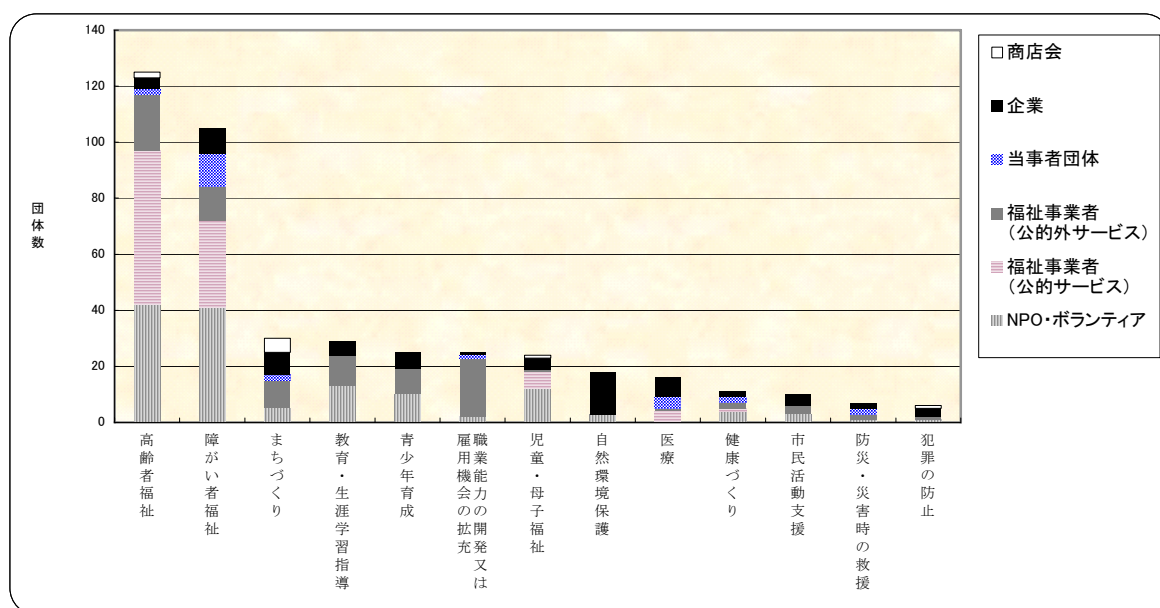
計画づくりは、市社協、特定非営利活動法人日本環境倶楽部、計画策定委員会の協働の中で、それぞれがもっている知識、情報、技術を出し合いながらすすめていきました。

2 民間組織・団体等を取りまく状況は？

今、民間組織・団体等は何に取り組んでいるの？
福祉、健康、医療を超えて幅広い分野で活動しています。

市内で健康福祉活動をしている民間組織・団体等の活動分野は、多岐にわたります。
「高齢者福祉」「障がい者福祉」をはじめとした福祉分野の他にも「教育・生涯学習指導」
「まちづくり」「職業能力の開発又は雇用機会の拡充」などにも取り組んでいます。

今、民間団体・グループが取り組んでいる活動分野（単位：件数）



今、民間組織・団体等はどうに取り組んでいるか（複数回答可）

1位	サービスの提供	51%
2位	親睦交流	32%
3位	社会一般に関する啓発	17%
4位	資金や物資の援助	15%
5位	相談活動等	15%

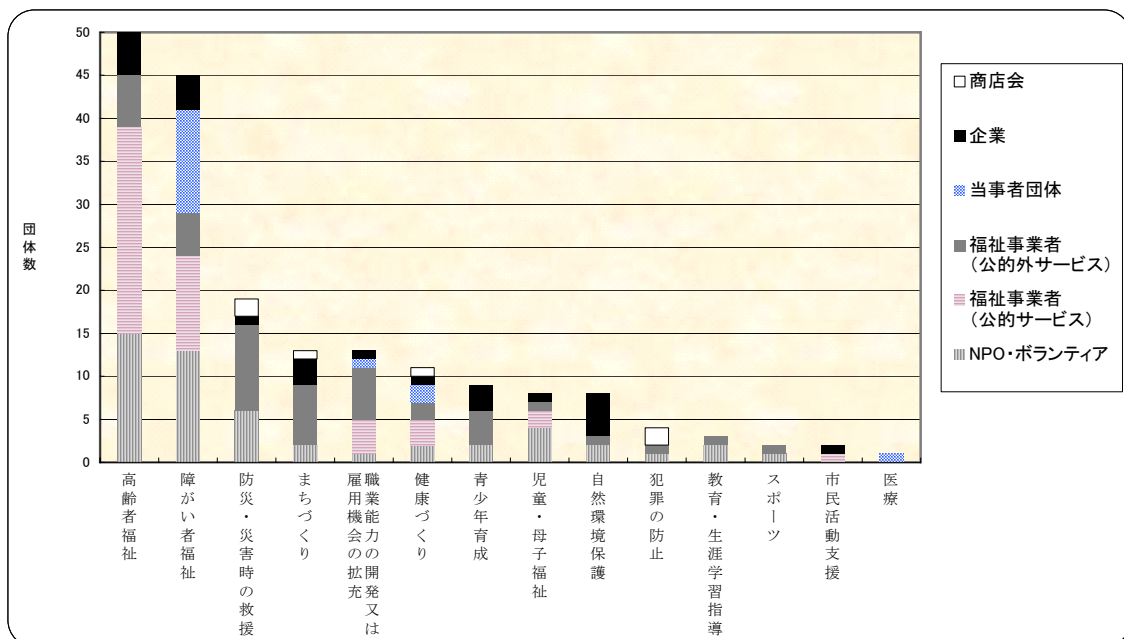
今、民間組織・団体等は活動を通して何を目標としているか（複数回答可）

1位	人と人とのつながりを大切にするまち	51%
2位	安心して健康福祉サービスを利用できるまち	32%
3位	安心して住み続けられるまち	17%
4位	一人ひとりが可能性を十分に活かせるまち	15%
5位	子どもが健やかに成長できるまち	15%

これから、民間組織・団体等は何に取り組もうとしているの？ 防災など新たな取り組みにも関心が高まっています。

「高齢者福祉」「障がい者福祉」以外では、「防災・災害時の救援」をはじめとして「まちづくり」「職業能力の開発又は雇用機会の拡充」「青少年育成」など、保健・医療・福祉以外の分野にも関心が高まっています。

これから、取り組みたいとする活動分野（単位：件数）



これから、民間組織・団体等はどのように取り組んでいるか（複数回答可）

1位	サービスの提供	35%
2位	社会一般に関する啓発	21%
3位	親睦交流	18%
4位	資料・情報の収集や提供	15%
5位	相談活動等	13%

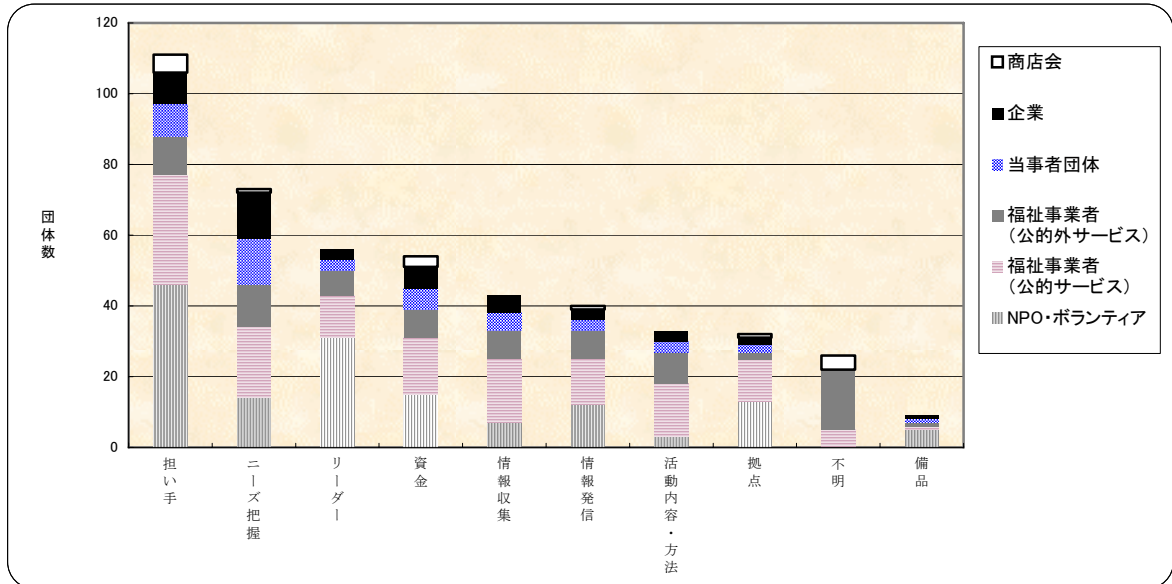
これから、民間組織・団体等は活動を通して何を目標としているか（複数回答可）

1位	安心して住み続けられるまち	42%
2位	安心して健康福祉サービスを利用できるまち	28%
3位	人と人とのつながりを大切にするまち	26%
4位	社会状況の変化に対応し安心して安全な生活を守るまち	12%
5位	一人ひとりが可能性を十分に活かせるまち	10%

民間組織・団体等は何に困っているか？

多くの団体が担い手やニーズ把握について困っています。

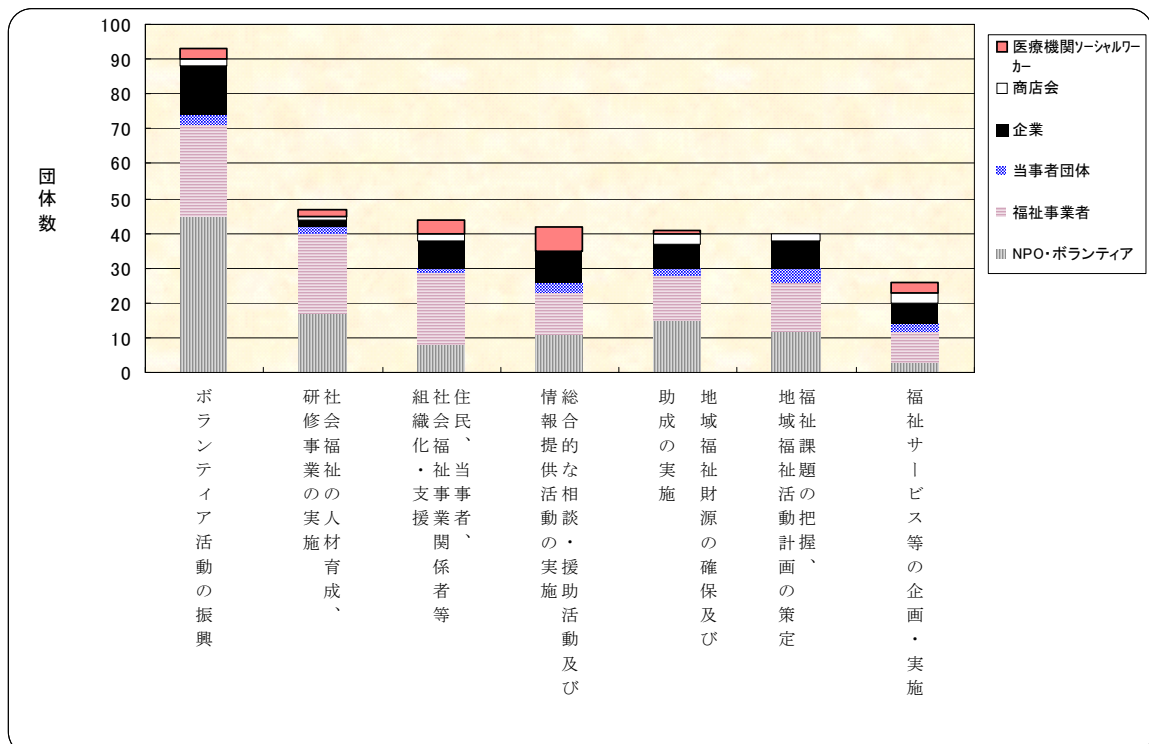
(単位：件数)



民間組織・団体等は市社協に何を期待しているか？

ボランティア活動振興をはじめ多様な活動に期待されています。

(単位：件数)



3

民間組織・団体等による健康福祉のまちづくりのすがたは？

これからの民間組織・団体等における健康福祉活動は？
地域健康福祉活動計画（民間計画）の3つの目標に向かって、
民間組織・団体等では次のように協働の可能性や方向性を探っ
ていきます。

計画の目標

プラットフォームのテーマ

目標 1

健康福祉を担う
「ひとづくり」
「しくみづくり」
をすすめます

- ☆ 情報交流・共有 (プラットフォーム1)
- ☆ 相談支援体制のネットワーク化 (プラットフォーム2)
- ☆ 余裕スペースの健康福祉活動への開放 (プラットフォーム3)
- ☆ 研修の実施 (プラットフォーム4)
- ☆ シニアパワーの活躍の場づくり (プラットフォーム5)
- ☆ 福祉教育の推進 (プラットフォーム6)
- ☆ 企業との連携の推進 (プラットフォーム7)

目標 2

みんなで
健康づくりと
生活の自立を
目指します

- ☆ 地域の一員としての参加 (プラットフォーム8)
- ☆ ボランティアの協力を得て活動の充実 (プラットフォーム9)
- ☆ 見守り体制のネットワーク化 (プラットフォーム10)
- ☆ 活動の周知 (プラットフォーム11)
- ☆ 予防の視点に基づく取り組み (プラットフォーム12)

目標 3

新たな
健康福祉の
課題に
取り組みます

- ☆ 課題の共有 (プラットフォーム13)
- ☆ 災害時に向けての取り組み (プラットフォーム14)
- ☆ 社会への提言・意見交換 (プラットフォーム15)
- ☆ 身近な生活圏域の充実 (プラットフォーム16)
- ☆ ニーズと担い手の情報共有 (プラットフォーム17)

目標達成のためにどうするの？

「プラットフォームのテーマ」を定め、新たな協働を生み出します。

ここでは目標を達成する方向を、17の「プラットフォームのテーマ」として示しています。

なぜなら、みなさんが、それぞれで今「困っていること・・・」を解決するために集まればその場は一つのプラットフォームとなり、そこから新たな「協働」が生まれる可能性があるからです。

なお、次ページの「民間組織・団体等はどうな取り組みをするの？」では、プラットフォームから生まれる「協働」の可能性を具体的に示しています。あわせて、協働を支援する「市社協ができること・・・」を示しています。

協働していくと・・・

- みんなで、なにか方法を一緒に探ることで新たな協働がさらに広がる



協働の場
プラット
フォーム

プラットフォーム

困っていること・・・



さまざまな悩み・・・

市社協ができること・・・

プラットフォームは、自由なものです。
いろいろなプラットフォームを一緒につくっていきましょう。

4 民間組織・団体等はどうな取り組みをするの？

目標 1

健康福祉を担う「ひとづくり」「しくみづくり」をすすめます

☆ 情報交流・共有 (プラットフォーム1)

☆ 相談支援体制のネットワーク化 (プラットフォーム2)

☆ 余裕スペースの健康福祉活動への開放 (プラットフォーム3)

☆ 研修の実施 (プラットフォーム4)

☆ シニアパワーの活躍の場づくり (プラットフォーム5)

☆ 福祉教育の推進 (プラットフォーム6)

☆ 企業との連携の推進 (プラットフォーム7)

出発進行！



プラットフォーム 1 情報交流・共有

普段からお互いの持っている情報を分かち合いましょう

今まで困難を乗り越えたそのノウハウが、柏市を変えるかもしれません。同じような活動をしている方、あるいは全然違った分野の専門家が、あなたの話を聞いて道がひらけるかもしれません。今、解決が必要な問題を解くヒントをだれかが、持っているかもしれません。そんな期待をもって、普段からお互いの持っている情報を分かち合いましょう。

協働していくと・・・

- 成功事例の共有から
 - ・役割分担の見直し
 - ・新規事業への挑戦
 - ・経営困難なサービスへの挑戦
 - ・事業の多機能化への挑戦
- 許認可を既に受けている事業者からのノウハウの獲得
- リーダーがひとりで抱えこみがちな悩みをみんなのものにする
- 生産品の得意先を増やす
- ニーズ把握から参加者層拡大
- 制度変更による減収への対応

協働の場
プラットフォーム

情報交流・共有

困っていること・・・

リーダー

- ・リーダーの負担過多、高齢化
- ・後継者育成が困難

活動内容・方法

- ・ニーズを把握し、参加者の層を拡大したい
- ・時代にあわせたサービスの工夫をしたい
- ・施設の生産品を多くの人に活用して欲しい
- ・必要だと思うが、経営困難で手を出せないサービスがある
- ・活動の新展開が難しい

情報収集

- ・サービス需要が見えない
- ・許認可の情報収集が困難

資金

- ・新制度移行により大幅な収入減

市社協ができること・・・

- 情報の収集・提供（ニーズ・人材・事業開始のノウハウ・制度変更への対応・事業経営・組織改革・許認可取得・生産品の活用など）
- 情報の交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）
- 連携等による事業実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）

◆Ⅱ 生活への支援◆

(2) 18歳以上のための支援

柏市の福祉手当としては、「ねたきり身体障がい者」「在宅重度知的障がい者」「その他の成人」についての手当があります。いずれも施設（老人保健施設を除く）入所者は対象外。基準等、詳細は柏市障害福祉課（☎04-7167-1111）まで問い合わせを。所得制限などもあるので、必ず確認をしてから申請してください。その他にも20歳になると障がいの症状や日常生活の状況によって「障害基礎年金」が支給されます。

また子どもをもうけた時には、その手当もあります。「児童手当」は小学校3年生修了前までの児童養育が対象です。

「児童扶養手当」は離婚などにより父親と生計を同じにしていない児童を養育している母子家庭や、父親に国民年金障害等級1級程度の障がいがある児童を育てている母親に支給される手当です。

いずれも詳細を児童福祉課に確認の上、申請してください。

子どもに障がいがある場合には、その手当もあります。これについてはQ24をご参照ください。

Q36. 悪気がなくても、犯罪と誤解されて警察に連れて行かれたらどうしたらよいのでしょうか。

とても怖い思いでいることでしょう。間違った供述を引き出されてしまう恐れもあります。

障がい者のことを理解している専門機関に速やかに連絡することをお奨めします。

いきなり弁護士さんとは、なかなか行かないものです。中核地域生活支援センター・あいネット（☎04-7165-8707）や県内で組織されている人権擁護委員会（☎043-223-2348 FAX043-222-9023）、NPO法人千葉子どもサポートセンター（☎043-266-8419）等に相談してみてください。

ください。弁護士に
ってくれると思います。

**Q37. 施設や職場に
出せません。**

受けている本人は
起こすことが大切で
事です。

また、外部の相談
その際、記録をとる
とが大切です。

**Q38. 悪質な訪問販
らどうしたら**

消費生活センター
期間内であればクー

また、その期限が
主張することもでき
にも助言をもらいま

**Q39. ボランティア
んを募集してい**



- 52 -

SPコードは、だれでも読める
ユニバーサルデザインです。

協働のススメ

柏市にはいろんな種類の障がい者団体や施設等があります。これらは、今、年々増えつつあり、又、社会環境や制度も目まぐるしく変化している時でもあります。そんな中、各団体それぞれではなく、みんなで活動の共通項を見つけ、情報交換・地域交流・官民協働を進めようと集まった組織です。障がい者向けハンドブックの作成、防災計画への参画・市行政との対話と協働等、その都度参加会員（39団体）の情報・意見を集約し、又、発信しています。

（かしわ障害者をむすぶ会）

プラットフォーム 2 相談支援体制のネットワーク化 自信をもって相談に臨むために自分の後ろに仲間をつくりましょう

相談援助にあたる時、答えられない時、サポートが欲しい時はありませんか？普段、仲間をサポートすることで、自分が必要なときには何人もの方が、自分をサポートしてくれます。そのような相談員が柏市内にたくさんいれば、より多くの福祉サービスを利用する方が救われるのではないのでしょうか？

協働していくと・・・

- 相互（異業種間等）で協力・支援できるネットワークづくり
- 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
- 保健・医療・福祉の地域ネットワークづくり
- 個人情報保護のための地区ボランティアや福祉事業所、当事者間の連携

協働の場
プラットフォーム

相談・支援体制のネットワーク化

困っていること・・・

活動内容・方法

- ・利用者の多様なニーズへ対応が困難
- ・専門家の指導助言がほしい
- ・保健・医療・福祉の連携が取りにくい

情報収集

- ・個人情報保護法施行後情報が得にくい

市社協ができること・・・

- 情報の収集・提供（取り組み事例など）
- 情報の交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）
- 連携等による事業実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）
- 研修の企画
- 総合相談支援体制の整備

協働のススメ

私たちは、病気によって「生活」に支障が出ないように、患者さんと話をしながら療養上支障となる問題を解決していくのが仕事です。「猫が寂しがるので入院しない！」と言い張って入院を拒否された一人暮らしの方と、猫の預け先を外来で一緒に探したこともありました。ペットショップを探し事情を説明しましたが、なかなか事情を理解してもらえず、解決するまで時間が掛かったことがあります。そういった過程の積み重ねが地域の理解者を増やすこととなり、患者さんを守る分厚い風除けをつくることにつながればと思っています。

（柏市立柏病院 医療相談室）

プラットフォーム 3 余裕スペースの健康福祉活動への開放 協働が生まれる可能性を広げましょう

「場所さえあればもっと活動できるのに！」という団体がたくさんあります。また、だれが必要としているのか分からないという方も多々いらっしゃいます。

地域の健康福祉活動の場所が提供されたことで人の輪が広がり、活性化されたという例もあります。お互いにプラスになる方法を見つければ相乗効果が期待できます。

協働していくと・・・

協働の場
プラットフォーム

- 人の輪が広がることで各種施設や企業等の余裕あるスペースの活性化と健康福祉活動の活性化の相乗効果

余裕スペースの健康福祉活動への開放

困っていること・・・

活動拠点

- ・活動場所の確保に苦労
- ・イベント会場の確保が困難
- ・備品の保管場所や作業場の確保
- ・研修室の確保
- ・住民参加の拠点づくり

市社協ができること・・・

- 公共施設、福祉施設の地域交流室、企業の開放スペースなど交流スペース情報収集とホームページなどでの情報提供
- 情報の収集・提供（ノウハウ・先進事例等）
- 情報発信する機会（広報・ホームページ・各種団体の会議の場等）の提供

協働のススメ

市内の7つ地区社協、6つの小学校では、世代間交流（教室）事業が実施されています。これは、地域の高齢者の支え合いのきっかけづくりや、子どもに地域の様々な人々とのふれあいの中で子どもがはつらつと育つことができ、多様な生活体験ができる機会を実現する地域のしくみづくりを目的としています。参加した高齢者の中から、子供達の登下校時の見守り活動など、様々な交流がうまれています。

（柏市社協 世代間交流（教室）事業）



プラットフォーム 4 研修の実施

みんなで学ぶことから協働の輪を広げましょう

ふだん独学で頑張っている方こそ、活動・工作中でも行き詰まりがちではありませんか？研修で、みんなで学ぶということが、だれかと協働で問題を解決するきっかけになるかもしれません。

協働していくと・・・

- 研修の協働企画を通じて、他団体との交流を深める
- 若手の研修・実習の受入により、指導職員のスキルアップ。また、将来のリーダーとして助けあえる仲間がつかれる
- 企業内の職場教育に福祉事業者、ボランティアなどの福祉実践ノウハウを活用することによるバリアフリーの推進
- 事業経営ノウハウを研修で学ぶことによる人材の確保、サービスの質の向上
- 制度変更に関する情報を研修で学ぶ
- 効率的なPR方法を研修で学ぶ

協働の場
プラットフォーム

研修の実施

困っていること・・・

担い手

- ・担い手の固定化・高齢化
- ・人的余裕がないので実習受入が困難
- ・職場環境が厳しく職員が定着しない

活動内容・方法

- ・企業内での職場教育の充実を図りたい

資金

- ・厳しい介護支援事業の経営

情報収集

- ・制度変更への理解がすすまない

情報発信

- ・仕事に追われ宣伝の余裕がない

市社協ができること・・・

- 研修の企画
- 研修の設定の支援
- 情報の収集・提供(事例・講師などの人材・ノウハウ等)
- 情報発信する機会(広報・ホームページ・各種団体の会議の場等)の提供
- 情報の交流・共有の場づくり(広報・ホームページ・各種団体の会議の場など)
- 連携等による事業実現への支援(地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど)

協働のススメ

柏市介護支援専門員協議会から研修の依頼を受け、認知症の講座を開きました。介護支援専門員とは、介護保険制定と同時につくられた専門職ですが、一般的にケアマネージャーといわれて、たくさんの高齢者の方たちにお会いして、要介護高齢者のケアプランを作成し、各種のサービスに結びつけるのがお仕事です。そのプランをつくる上で、認知症の人たちに接することも多く、その病気、症状、そして認知症の人々の気持ちや生活などを知り、学び、プランに活かしたいと講師の依頼をいただきました。お役に立つならと喜んでお引き受けしお話しいたしました。(デイホーム笑実里)



協働のススメ

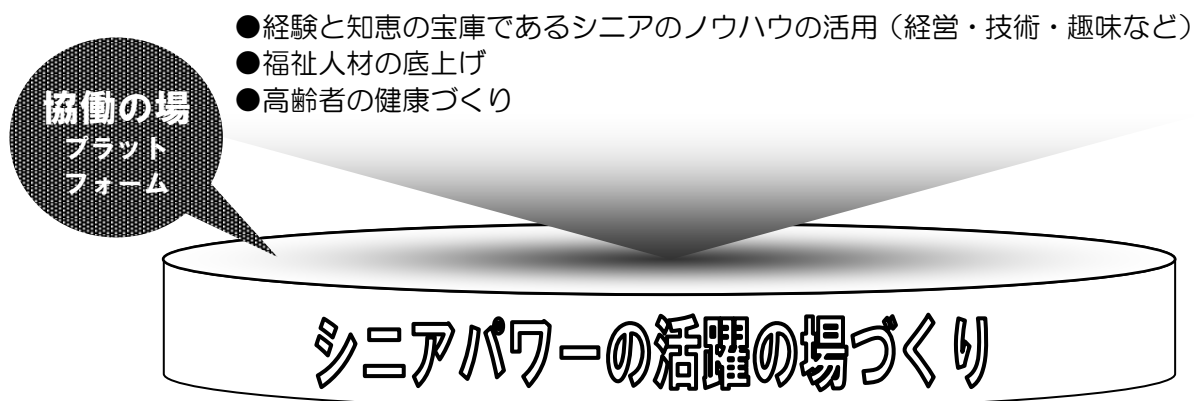
私たちは、平成15年度（第1回）、平成16年度（第2回）に市社協が主催した精神保健ボランティア養成講座の修了者が集まって出来たグループです。講座を受ける前まではまったく見ず知らずの人たちがたまたま研修を通じて知り合い精神障がい者とその家族の生活しやすい地域づくりのために活動することを目的として平成17年4月に立ち上げました。会員は現在17名、活動先としては精神に障がいを持った人たちを対象とした柏市のデイケアクラブで月2回小規模授産施設で月4回、共同作業所で月4回活動しております。（ボランティアグループ「あんだんて」）



プラットフォーム 5 シニアパワーの活躍の場づくり 健康福祉の担い手の層を厚くしていきましょう

今まで柏市の福祉事業・活動を支えてくださった方は、主婦層の女性が多かったです。また、ばりばり仕事をして、日本を支えていた人たちの多くが、これから定年を迎えます。男性シニアの地域デビューの場をつくることで、柏市の健康福祉をさらに層の厚いものにしていきましょう。

協働していくと・・・



困っていること・・・

担い手 <ul style="list-style-type: none">・ 担い手が固定化しているので新しい人材がほしい	活動内容・方法 <ul style="list-style-type: none">・ 介護保険適応にならない中高年へのサービスの不足	資金 <ul style="list-style-type: none">・ 厳しい介護支援事業の経営
---	--	--

市社協ができること・・・

- 研修の企画（ボランティア入門講座、施設など内容別の講座）
- ボランティアセンターでの相談などの支援

協働のススメ

2004年に設立。「生涯現役ときわ会」の13年間の趣味・学習活動の実績を母体とし、次世代の新しい「まちづくり」の活動を、生涯学習の視点で創造し、実践している。例えば、趣味のパソコン、書道、絵画、俳句等を活かした高齢者向けの学習サポート、日曜大工の経験を生かした各種バリアフリー工事、身近な科学をテーマにした小学生向け講座や、職業人としての経験（経理、法務、総務、企画等）を活かした活動の場づくりを展開している。（NPO 法人ときわ会まちづくりネットワーク）

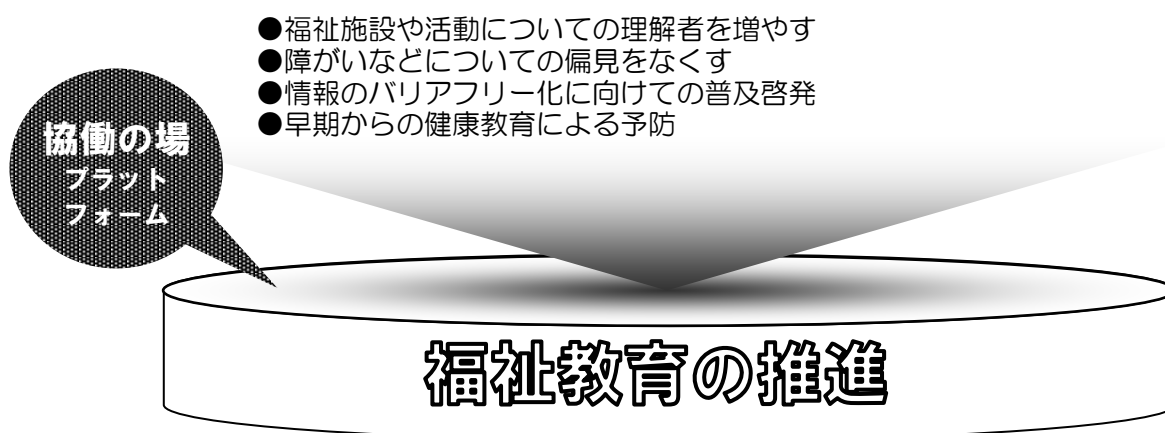


プラットフォーム 6 福祉教育の推進

社会全体の生きる力を高めましょう

生きる力とは、なんでしょうか？わたしたちが、普段、事業や活動を通して学んでいること、感じていることの中にそれがあるかもしれません。そして、それを、より多くのこどもたち、社会のより多くの人に伝えることで、社会全体の生きる力を高めていくことができます。

協働していくと・・・



困っていること・・・

情報発信

- ・施設に対する地域の理解が得にくい
- ・障がい者に対する偏見が多い

情報収集

- ・病気に関する情報を得にくい

市社協ができること・・・

- 福祉教育指定校への助成事業
- 世代間交流事業の展開
- 情報発信する機会（講座・広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）の提供
- 子どもへの福祉教育事業等での普及啓発
- 情報収集・提供（人材・ノウハウ・先進事例など）
- 情報の交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）
- バリアフリーを率先してすすめる

協働のススメ



「お年寄りとともに」
教わったことをもとに子どもたちは、創造性を広げ、さまざまな形を創っていきます。手賀西の子どもたちは、毎年冬になると、泉老人クラブの皆様を招いて、昔の遊びや伝統的な鳥びしや、ばらっぱまんじゅうづくりに挑戦します。お年寄りと一緒にやって行う活動は、心のふれあいを、生きる力を与えてくれます。「今年はどんな形ができるか楽しみです」と話すお年寄りの言葉に、子どもたちを見守る温かな地域の力を感じています。

(福祉教育指定校 柏市立手賀西小学校)



プラットフォーム 7 企業との連携の推進

お互いにとって強力なパートナーシップをつくりましょう

協働の相手は、健康福祉を主目的にする組織・団体だけではありません。企業活動の中で健康福祉に関する強い問題意識を抱えている企業が多くあります。それぞれが持っているノウハウは、お互いに貴重なものとなるでしょう。お互いにとって強力なパートナーシップをつくれます。

協働していくと・・・

協働の場
プラットフォーム

- 企業と健康福祉活動者のノウハウの交換
- お互いにとって、よりスケールの大きい活動となる
- 理解してくれる企業（商店・不動産関係など）と支援のネットワークをつくる
- 連携の推進がPRになる

企業との連携の推進

困っていること・・・

活動拠点

- ・施設用地の不動産契約が困難

情報収集

- ・社会貢献の情報が得にくい

市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例等）
- 交流の場づくり
- 情報発信する機会（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）の提供
- 情報収集のための調査への協力



（写真提供：月刊ふるさと柏）

協働のススメ

「地域」コミュニティと一体となって、より豊かな社会の実現に向けて考え行動することを基本理念に、今年で32回目になるふれあいトークを開催するなど多角的な地域貢献活動を展開しています。さらなる展開を考えるうえで、今は、近隣企業と社会貢献活動について情報交換を行なう場が少ないため、どのような活動が求められているかが見えづらい現状です。近隣のボランティア活動の情報、特に環境活動の情報があれば積極的に参加することも検討したいと考えています。

（オリエンタルモーター㈱技術研究所）

目標2 みんなで健康づくりと生活の自立を目指します

- ☆ 地域の一員としての参加 (プラットフォーム8)
- ☆ ボランティアの協力を得て活動の充実 (プラットフォーム9)
- ☆ 見守り体制のネットワーク化 (プラットフォーム10)
- ☆ 活動の周知 (プラットフォーム11)
- ☆ 予防の視点にもとづく取り組み (プラットフォーム12)

みんなでファイト！



プラットフォーム 8 地域の一員としての参加

地道な活動の積み重ねから信頼と仲間を広げましょう

日頃の地道な事業・活動が続ける中で、周囲を見渡すと理解してくれている人たちが実は増えていたということはありませんか？事業・活動を通じてできた理解者と、お互いに今までの交流の中から、感じとったことをもとに、どのような協働ができるか話し合ってみましょう。そこから、自分の活動を支えるかけがいのない仲間が出来るかもしれません。

協働していくと・・・

協働の場
プラット
フォーム

- 講座の共催から日頃の活動の協働企画への展開
- 他機関等との連携・協働による活動の展開
- 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりへの取り組み

地域の一員としての参加

困っていること・・・

活動内容・方法

- ・地域との交流はしているが、より深いものにしていきたい
- ・本来の人と人とのつながりが最近薄れている

市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例など）
- 交流の場づくり
- 情報発信する機会（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）の提供
- 情報収集のための調査への協力
- 連携等による事業実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）



協働のススメ

地区の高齢者の方を必要なサービスに早く結びつけられるよう個別の訪問を続けているが、ここ3年間で、私たち「はみんぐ在宅介護支援センター」は富勢地区の住民の仲間に入れてもらえることができたと感じている。今年度、地区社協のボランティア部会の副会長として毎月会議に出ている。気持ちのよい挨拶を行い、活動報告・助言・今後の活動について地域の方と同じテーブルにつかせてもらっている。自分たちの地域を、自分たちで時間をかけて、楽しくつくる実践の場となっている。（はみんぐ在宅介護支援センター）

プラットフォーム 9 ボランティアの協力を得て活動の充実 なぜ協力するのか？してくれるのか？の理解からはじめましょう

事業・活動を理解し、そのために一肌脱いでくれるという人はいますか？なぜ協力してくれるのか？活動を通して何を得ているのか？普段の活動から理解しないと信頼関係は築けません。お互いの共通の目標が見つかればパートナーとして、事業・活動の充実を一緒に図ることができます。

協働していくと・・・

- 支えあう仲間が周囲に増える
- ボランティアに援助技術を伝えることで職員の資質が向上する
- 当事者団体とボランティアが協働することで組織としての活動を発展
- ボランティアを受け入れるために体制が整備される
- ボランティア導入による事業所の活性化

協働の場
プラットフォーム

ボランティアの協力を得て活動の充実

困っていること・・・

リーダー（当事者団体）

- ・ やりたいことはあるが、障がいを抱えて活動するので負担が大きい

担い手

- ・ ボランティア導入で施設の活性化を図りたい

市社協ができること・・・

- ボランティアセンターでの相談などの支援
- 施設の担当者への情報の提供や相談、交流の場の設定などの支援

協働のススメ

いずみ園では老若男女問わず、非常に多くのボランティアの支援をいただいています。ボランティアの中には、「何かの支えになりたい」という気持ちから、ボランティアをするにつれて、実は「支えられている、元気をもらっている。」という気持ちになっていく人がいます。障がいがあってもなくても、人は「お互い支え合って生きている」ということ。それが人を育て、地域が育っていくのではないのでしょうか。「地域の福祉の拠点」、それがいずみ園の願いです。（身体障害者授産施設いずみ園）



プラットフォーム 10 見守り体制のネットワーク化

だれもが安心な生活を送るためにみんなでサポートしましょう

家で生活している方が、保健・医療・福祉の対応が必要な状況になった時に、最初のだれが発見するかということだけでは、安心を提供することができません。発見された場合に、それぞれの専門性に立ったうえで、支えてくれるしくみづくりが必要になります。

協働していくと・・・

- 利用者了解のうえで、地区ボランティアや福祉事業所、当事者団体などが一緒に支えることができる
- 活動を通じた信頼関係の構築によるネットワーク化
- 課題の共有と解決に向けたシステムづくりのきっかけとなる
- 身寄りのない要介護者等への支援体制の充実
- 保健・医療・福祉の地域ネットワークの構築

協働の場
プラット
フォーム

見守り体制のネットワーク化

困っていること・・・

ニーズ把握

- ・個人情報保護法施行後、地域の活動者との連携が難しくなっている

活動内容・方法

- ・障がい種別によって利用の定着が難しい
- ・本来的な人と人とのつながりが最近薄れている
- ・独居や夫婦だけの世帯が増えている
- ・要介護者のケアのキーパーソンがいない人が増えた
- ・保健・医療・福祉の連携が取りにくい

担い手

- ・安心して活動するためにいざという時にサポートしてほしい

情報収集

- ・個人情報保護法施行後情報が得にくくなっている

市社協ができること・・・

- 総合相談・支援体制の整備
- 地域福祉権利擁護事業の充実
- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例等）
- 交流の場づくり（住民・多様な団体）
- 情報を提供する機会（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）の提供
- 連携等による事業実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）



協働のススメ

学校での総合的な学習の時間での交流などをきっかけに、市内の老人クラブが、自発的に学校の登下校の見守りパトロール活動を展開しています。また、交流がない学校に対しては連携を呼びかけるために、地域の老人クラブ会長の名簿を市内の学校に配布しました。そこから、新しく生まれた活動もあります。地域の孫は、私たちが守るという意気込みで、毎日巡回に励んでおります。

(柏市老人クラブ連合会)

協働のススメ

高柳地区社協では、住民100世帯におおむね一人の福祉委員がいます。担当の地区によりますが、そのうち高齢者世帯が、1/3近くになるところもあります。住民の一人ひとりが自然な流れの中で、ご近所づきあいができれば安心できる社会になると思うのですが、昔と比べると向う三軒両隣のつきあいが薄れており、中には、それが難しい方もいます。福祉委員として、行政や在宅介護支援センターと連携して、そのような方々も含めて地域の見守り活動をしています。日々の活動の中で、地域みんなが支えあえるようにご近所づきあいの輪を広げていきたいと願っています。

(高柳地区社会福祉協議会 福祉委員)



プラットフォーム 11 活動の周知

あなたの活動をみんなに広げましょう

より多くの人が活動について知ることで、普段の事業・活動がしやすくなります。また、活動内容を広く周知することでそのサービスがより多くの人が利用できるものとなります。柏市全体の健康福祉サービスの質を高めることとなります。

協働していくと・・・

- 活動の啓発と周知への取り組みにより、活動が周囲から評価される
- 地元での活動の協力者が増える
- 同じ活動を目指す仲間が現れる
- 広く情報を提供できるシステムや体制づくりにより、今後のPR活動に継続する
- 活動を必要とする人・場を発掘できる

協働の場
プラット
フォーム

活動の周知

困っていること・・・

担い手

- ・社会貢献活動について地域の理解者が少ない
- ・会社内部での社会貢献活動の評価が低い

活動内容・方法

- ・活動参加機会を模索している
- ・地域ニーズの情報が不足している
- ・社会貢献活動にかかわる情報が不足している

情報収集

- ・地元町会へのPRが困難
- ・発足間もないため効果的な宣伝ができない
- ・広報によるPRの機会を拡大したい

ニーズ把握

- ・困っている人の情報が入らない

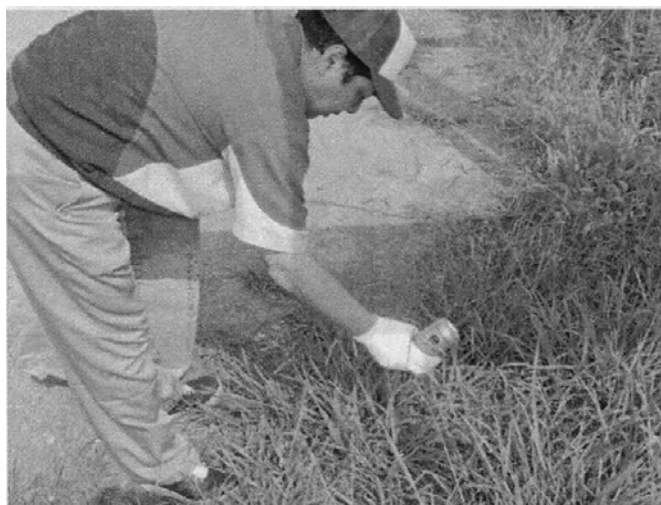
市社協ができること・・・

- 情報発信する機会（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）の提供
- 地域の活動者との交流の場の提供
- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例など）
- 交流の場づくり（住民・多様な団体）
- 総合相談支援体制の整備
- 講師の派遣

協働のススメ

環境を企業としてどう捉えていくか生産者として考える必要あるということから空き缶拾いを始めて20年。年4回、3コースに分かれて空き缶を拾っている。拾った空き缶から、どのような缶が捨てられるかを分析している。行政を巻き込んで大勢で展開していたときもあったが、今は職員が地道に続けている。今、地域の方々と一緒に展開することで交流ができればと模索しているところです。

(アサヒ飲料柏工場)



協働のススメ

断酒新生会は、お酒で困っている人たちが、自分たちの意志で酒をやめようと立ち上がった自助グループです。例会では、過去の酒にまつわる体験やそれに対する反省などが語られます。会で親睦を図り、より親密な人間関係をつくって、仲間意識を強めようとしています。私たちの活動を知らずに、一人で酒のことで困っている人がいれば少しでも早く知りあい、助けあいたいと思い、さまざまな場で活動のPRを行っています。

(柏断酒新生会)



プラットフォーム 12 予防の視点にもとづく取り組み みんなで課題を未然に防ぎましょう

健康福祉活動の中で「もっと早く相談してくれれば良かったのに・・・」と思うことは、ありませんか？一人ひとりが健康づくりと生活の自立を目指すことが必要ですが、予防の視点を持ち、みんなで取り組むことでより大きな効果が期待できます。

協働していくと・・・

- 地域ぐるみで子どもを育てる環境をつくる
- 課題の共有と解決に向けたシステムをつくる
- 健康づくりにみんなで取り組むことで継続性が増す
- シニアパワーの活用による健康福祉の人材の確保

協働の場
プラット
フォーム

予防の視点にもとづく取り組み

困っていること・・・

活動内容・方法

- ・介護保険の適応にならない中高年へのサービスの不足
- ・子どもの万引きなどへ対応していると社会全体の問題だと感じる
- ・子どもの周囲の環境が悪化していると感じる

市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例など）
- 交流の場づくり（住民・多様な団体など）
- 連携等による事業実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）

協働のススメ

おせっ会・サロン活動とは、歩いていける範囲である町会・自治会等で「身近な人同士ができるときにできることをしましょう」という考えから生まれた少子・高齢社会に対応した支えあいまちづくり活動です。だれもが気軽に歩いて出てくることができる場づくりや「顔見知り」になるきっかけづくりからはじめなど、取り組みかたは多様です。「集い」という形ではじめているところ、「昼食会やお茶会」として行っているところがあります。このように楽しい場に出てくるだけで、心が弾み、身体にほどよい緊張感が生まれ、健康づくりや介護予防につながるとともに、地域で住む安心感につながります。

(おせっ会・サロン活動)



協働のススメ

私たちは、子どもの万引きの現場を発見し教育的指導をすることがよくあります。そうした子どもの中で、出来心だけではなく、リサイクルショップなどでの販売目的に行う常習者が増えてきているということがあります。親の中でも子どもに対して強く叱れない方が増えていっているように思います。ここで、注意しないとこの子は犯罪者になるかもしれないと思い、教育的な対応を学校や警察などと連携しすすめています。このような問題について、地域の大人みんなが、もっと根本から、もっと真剣に考えていかないと、国の将来が取り返しのつかないことになるのではないかと痛切に感じています。(浅野書店)



目標3 新たな健康福祉の課題に取り組みます

- ☆ 課題の共有 (プラットフォーム 13)
- ☆ 災害時に向けての取り組み (プラットフォーム 14)
- ☆ 社会への提言・意見交換 (プラットフォーム 15)
- ☆ 身近な生活圏域の充実 (プラットフォーム 16)
- ☆ ニーズと担い手の情報共有 (プラットフォーム 17)

みんながいるから大丈夫！



プラットフォーム 13 課題の共有

あなたの課題をみんなの課題として取り組むことで先がひらけます

同じ課題について、違った切り口で活動している団体が多くあります。抱えた課題の解決を一緒にすすめることで、新しい糸口を見つけることができるかもしれません。さらに、課題を共有できる団体がお互い知り合うことで協働のきっかけづくりになります。

協働していくと・・・

協働の場
プラット
フォーム

- 調査研究を同じ目的を持つ他の団体と協働で展開することにより多くの解決策を持てる
- 解決へ向けた動きがよりダイナミックに展開できる
- 同じ目的をもった他の団体との連携強化

課題の共有

困っていること・・・

情報収集

- ・地域ニーズの情報が不足
- ・情報交換の場の不足
- ・新制度移行への対応が困難

ニーズ把握

- ・ニート問題などに取り組まなければいけないと思うが実態がつかめない

市社協ができること・・・

- 情報提供（ノウハウ・先進事例等）
- 情報交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場等）
- 情報収集のためのフィールドの紹介
- 大学などと協力し、データ収集・課題分析

協働のススメ

柏市内の「通所作業所」で働く障がい者がたくさんおります。活動として、自立生活支援、就労支援、地域交流、相談支援等を行っております。地域の方々と協働で交流を深めながら理解し合い、自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指しています。お互い「一歩」踏み出し、高齢者・子ども・障がい者を含め、地域での共通課題の共有化を図りつつ、お付き合いができればと考えております。（社会福祉法人彩会）



プラットフォーム 14 災害時に向けての取り組み いざという時の安心をみんなで作っておきましょう

災害時こそ身近な地域でお互いの助けあいが必要となります。その時、何ができるのか、どのような手伝いが必要なのか、事前に顔をあわせて話し合っておくことで、安心を作ることができます。

協働していくと・・・

協働の場
プラット
フォーム

- 災害時に向けて、地域住民、福祉事業者、行政などのさまざまな分野の者同士による話し合い
- 話し合いから日常的な交流、相互理解が深まる

災害時に向けての取り組み

困っていること・・・

活動内容

- ・災害時の支援方法の検討が必要だが何からはじめていいかわからない
- ・今援助で関わっている人が災害時に自力での避難が困難

市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例など）
- 情報交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）
- 連携等による事業実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）

協働のススメ



柏市立旭東小学校は、災害時に向けての取り組みということで避難所の開設というところに焦点を絞り学区各町会・近隣センターと共に具体的構想を作成するという準備を進めています。実際に地震が起きた時、避難してくる場所に具体性がなかったら混乱を更に拡大してしまいます。建物や敷地のどこをどのように使うかと組織をどのように活用するかが検討の内容です。住民にイメージを持ってもらい訓練までできることが目標です。（柏市立旭東小学校）

プラットフォーム 15 社会への提言・意見交換

社会をだれもが住みやすいまちにしましょう

新たな課題にぶつかった時、一人で解決が難しくても、みんなの問題とすることで、だれもがより住みやすいまちにしていけるきっかけができるかもしれません。勇気をもって提言し、みんなで意見交換することで、一緒に取り組む土壌をつくっていきましょう。

協働していくと・・・

協働の場
プラット
フォーム

- 行政や市社協への提言・意見交換で改善されたサービスにより、多くの方がサービスを利用しやすくなる
- 行政や市社協などと意見交換をすることがサービスを理解するきっかけとなる
- バリアフリーがすすむ

社会への提言・意見交換

困っていること・・・

活動内容

- ・障がいにより情報提供が受けにくい

情報発信

- ・障がいについて理解者が少ないため情報提供が受けにくい

市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例など）
- 情報交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）
- 受けた提言に対して、内部の連携強化とサービス向上につなげる
- 連携等による提言内容の実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）
- 福祉教育事業等での普及啓発
- 情報のバリアフリーを率先して進める

協働のススメ

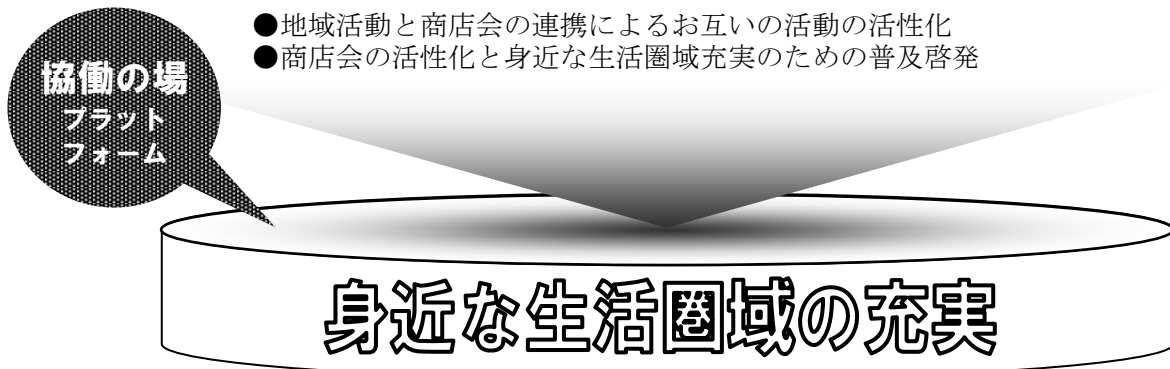
ユニバーサル対応である「SPコードによる情報提供を社会のマナー」とするために、社会の皆様方へ啓発周知を行い、行政、諸団体、企業の方々へのご理解をいただくため署名活動を行っております。また、障害者基本法の改正に伴い、健常者との情報格差を無くすための施策が重要となっている状況下、高齢者、中途失明者の増加により、視覚障害者が自分自身で読むことができる「情報環境のインフラ構築」を推進しています。（柏市中心身障害者福祉連絡協議会）



プラットフォーム 16 身近な生活圏域の充実 地元の商業をみんなで育てましょう

年齢を重ねると生活圏域がより身近な範囲となってきます。しかし、身近な生活圏域の空洞化がすすんでいるのが現状です。だれもが、身近なエリアで買い物ができるという環境を大切にしていきましょう。

協働していくと・・・



困っていること・・・

担い手 ・地元の商店が減少	活動拠点 ・空き店舗などを有効に活用できないか
-------------------------	-----------------------------------

市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例・各種助成事業など）
- 連携等による実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）

協働のススメ

豊四季台地区社協の「孤独死ゼロ推進事業」の一つとして豊四季団地名店会の「にこにこサロン」を利用して週1回喫茶店を開店し気軽に立寄れるふれあいの場を設け、大好評を得ています。地区社協と名店会が共同で柏市の商店街活性化事業「リサーチ&トライ」を活用して、空店舗に手作り作品展示・販売店を開店させ、店頭遊びの場や地域情報掲示板を設け、地区社協ボランティアが全面的に運営し、三世代交流の場をつくっています。また、空店舗で地域の皆さんからご提供いただいたひな人形や五月人形の展示、豆まき、七夕、もちつき大会など、地域の方々とのふれあう行事を地区社協と名店会が協働で行い、地域住民との交流の輪が広がってきています。

(ふれあいの店・とよしき)



プラットフォーム 17 ニーズと担い手の情報共有 使いたい人、使ってほしい人がより出会えるようにしましょう

担い手にとって、自分達の事業・活動が実際にニーズに合っているものなのかどうか？どこにニーズがあるのか？は貴重な情報です。それに対して、サービスの不足に困っている方もいます。それらの情報を共有化することで、お互いの今後の活動が展開しやすくなります。

協働していくと・・・

- ニーズに即した活動の展開
- 現在不足しているサービスの充実

協働の場
プラット
フォーム

ニーズと担い手の情報共有

困っていること・・・

活動内容・方法

- ・ニーズを把握したうえで、より参加者の層を拡大したい
- ・時代に合わせたサービスの工夫をしていきたい
- ・退院後の施設の受入先がない

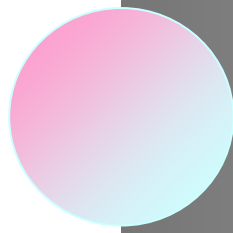
市社協ができること・・・

- 情報収集・提供（ノウハウ・先進事例など）
- 連携等による実現への支援（地域組織・団体やボランティア・市社協在宅サービスなど）
- 情報交流・共有の場づくり（広報・ホームページ・各種団体の会議の場など）
- 情報を提供する機会の提供
- 事業開始のノウハウを交換できる場の設定



協働のススメ

私たちは、「遺言書の作成」と「成年後見制度」についてセミナー等を通じてその重要性を普及・啓発する活動を行っています。少子・高齢社会を迎え、老後を安心して豊かに過ごす上で、この問題は欠かせないテーマであると考えますが、そのニーズを把握するのが難しいのが現実です。そのような潜在的なニーズをいち早く捉え、より快適な老後のお手伝いをする上でも、これまで以上に広報活動の機会を提供していただき、さらには行政等との協働の活動につなげていければと考えております。（NPO法人おいじたくあんしんねっと）



第3章

市社協発展・強化計画

1. 市社協発展・強化計画はどのようにまとめられたの？
2. 市社協をとりまく状況は？
3. 協働推進役としての市社協のすがたは？
4. 協働推進役として市社協はどんな取り組みをするの？
5. 協働推進役としての市社協の体制は？

第3章 市社協発展・強化計画

1 市社協発展・強化計画はどのようにまとめられたの？

市社協発展・強化計画のねらいは？

市社協の使命と経営理念をふまえ、「見える社協」を目指した発展・強化計画です。

市社協の使命・経営理念を実現します！

市社協は創設50周年を迎えます。今日の社協をとりまく環境は大きく変化しており、これに対し、全国社会福祉協議会では「市区町村社協経営指針」を策定しました。

市社協では、この経営指針にある使命・経営理念を実現すべく、発展・強化計画を策定します。

これまでの歩みから見えてきた課題！

これまで、市社協は、健康福祉の推進役としてさまざまな住民ニーズに応えるべく活動領域を拡大し、事業の推進に努めてきました。しかし近年、組織の複雑化や事業の細分化がすすむ中、ともすると市社協活動が「見えにくい」状況にあります。

今後、3年間で実行していく計画です！

この計画では、地域における健康福祉活動の推進役として、事業運営（経営）のビジョンや目標を明確にし、「地区別計画」や「民間協働推進計画」を実現化していくために、内外に対して「見える社協」を目指した今後の方針を位置づけます。また、計画の内容は、単に「あるべき姿」を示すものではなく、今後3年間で実行していく計画とします。

市社協の使命と経営理念

使 命

だれもが安心して暮らすことができる健康福祉のまちづくりを推進する

経 営 理 念

- ・住民参加・協働による健康福祉社会の実現
- ・地域に根ざした利用者本位の健康福祉サービスと総合相談支援体制の実現
- ・地域の健康福祉ニーズにもとづく事業や先駆的な取り組みへのたゆみない挑戦

市社協発展・強化計画はどのようにとりまとめられたの？

現状の把握から課題の抽出、ヒアリングによる重点目標・施策の設定、関係機関との調整によりとりまとめました。

現状の把握と課題の抽出、 課題に対する施策

まず、計画策定に向けて、全職員を対象に、全 68 項目にわたる事務事業アセスメントシートを用いて、現状の把握と課題の抽出、課題に対する施策について、整理をしました。

担当別ヒアリングの実施

現状の把握や課題の抽出がされ、今後の必要な施策について整理がされてきたものをもとに（計画策定検討シート）、担当別にヒアリングを実施し、基本目標や計画化する施策の設定を行いました。

地区別計画と民間協働推進 計画を具現化していくために

地区別計画策定における地区懇談会、民間協働推進計画における調査などの進捗状況や結果に対し、今後、市社協が担うべき「役割」を明確にしていきました。

関係機関との調整

「協働」をテーマに、そしてより実効性の高い計画にしていくなため、関係機関との話し合いや計画づくりを積極的にPRしました。特に行政とのパートナーシップによる計画づくりを目指し、定期的な調整会議を実施しました。

市社協発展・強化計画策定までの流れ

地域健康福祉活動計画（民間計画）策定委員会

①意思決定

理事会・評議員会による計画策定の意思決定

②現状把握・整理

全職員に対し、事務事業アセスメントシートによる現状把握と整理

③課題の抽出

事務事業アセスメントシートの整理により、課題の抽出

④使命の明確化

市社協の使命・経営理念の再確認と明確化

⑤基本目標と施策の設定

各担当のヒアリングを通じて、計画化する基本目標と施策の設定

⑥関係機関との調整

関係機関との話し合い、計画策定のPR、行政との調整会議の実施

⑦計画のとりまとめ

計画策定委員会を中心に、計画の最終とりまとめ

⑧意思決定

理事会・評議員会による計画承認・決定

2 市社協をとりまく状況は？

市社協をとりまく現状と課題は？

社会構造の変化により多種多様なニーズの対応が市社協に求められています。

市社協は時代の背景やニーズにそって活動してきました

市社協は、健康福祉を推進する中核的な団体として、健康福祉のまちづくり活動を推進してきました。活動においては、その時々時代の背景や住民ニーズにより、地域住民や関係機関等との協働の中からすすめてきました。

現状と課題

今日の社会福祉の情勢は、社会構造の変化等による流れの中で、多種多様な福祉ニーズが複雑に絡み合い、単に一つのサービスや活動によって解決されるものではなくってきています。また、健康福祉ニーズを持つ方だけでなく、活動を行う方にとってもコミュニケーションや助けあい支えあいの活動を維持し、新たな活動を展開していくことが難しい状況にあります。

これからの市社協

市社協は、このような変革期にある社会を一つの契機としてとらえ、地域住民をはじめさまざまな関係機関等と「改めて地域の健康福祉を考え、実行につなげていく機会」として、更なる発展・強化を図ります。

市社協をとりまく現状と課題の背景

- ◇社会福祉法において、**地域福祉の中核的な団体**として位置づけられています。
- ◇地方自治法改正により同法第224条の公の施設管理が変更され、いわゆる**指定管理者制度の導入**がされました。
- ◇自治体の財政逼迫により**補助金・委託費の見直し**が行われています。
- ◇地方分権にともなう三位一体の改革により自治体の裁量権が拡大され**事業の見直し**が行われています。
- ◇2007年問題や自立支援並びに介護予防などの**新たな視点**が必要となってきました。

市社協の使命にもとづきどのような改革をしていかなければならないのかを組織内で問い、内外に市社協の発展・強化を示さなければなりません。

3 協働推進役としての市社協のすがたは？

これからの協働推進役としての市社協の役割は？

地域健康福祉活動計画（民間計画）の3つの目標に向かって、市社協は次のような施策を推進していきます。

3つの目標

施 策

基本目標

目標 1

健康福祉を担う
「ひとづくり」
「しくみづくり」
をすすめます

- ☆相談支援窓口の充実（施策 1）
- ☆情報収集・提供システムの確立（施策 2）
- ☆ネットワークによる健康福祉の推進（施策 3）
- ☆ボランティアセンター機能の強化・拡充（施策 4）
- ☆民生委員児童委員協議会と老人クラブ連合会の事務局機能の充実・強化（施策 5）
- ☆福祉教育の充実（施策 6）

目標 2

みんなで
健康づくりと
生活の自立を
目指します

- ☆地区社協への支援強化（施策 7）
- ☆ニーズに適した在宅福祉サービスの展開・開発（施策 8）
- ☆介護予防の推進（施策 9）
- ☆市社協の機能を最大限に活かした受託事業の展開（施策 10）

目標 3

新たな
健康福祉の
課題に
取り組みます

- ☆ニーズの発見・把握のしくみづくり（施策 11）
- ☆災害時における対応の整備（施策 12）

総合的な相談支援体制の整備

目標達成のためにどうするの？

総合的な相談支援体制の整備を基本目標とします。

市社協の事業は、“相談”と“支援”で成り立っています！

市社協の事業は、生活全般に関しての「相談」に対する「支援」をはじめ、ボランティアをやってみたいという「相談」に対する活動場所の紹介などの「支援」というように、常に「相談」と「支援」が存在します。

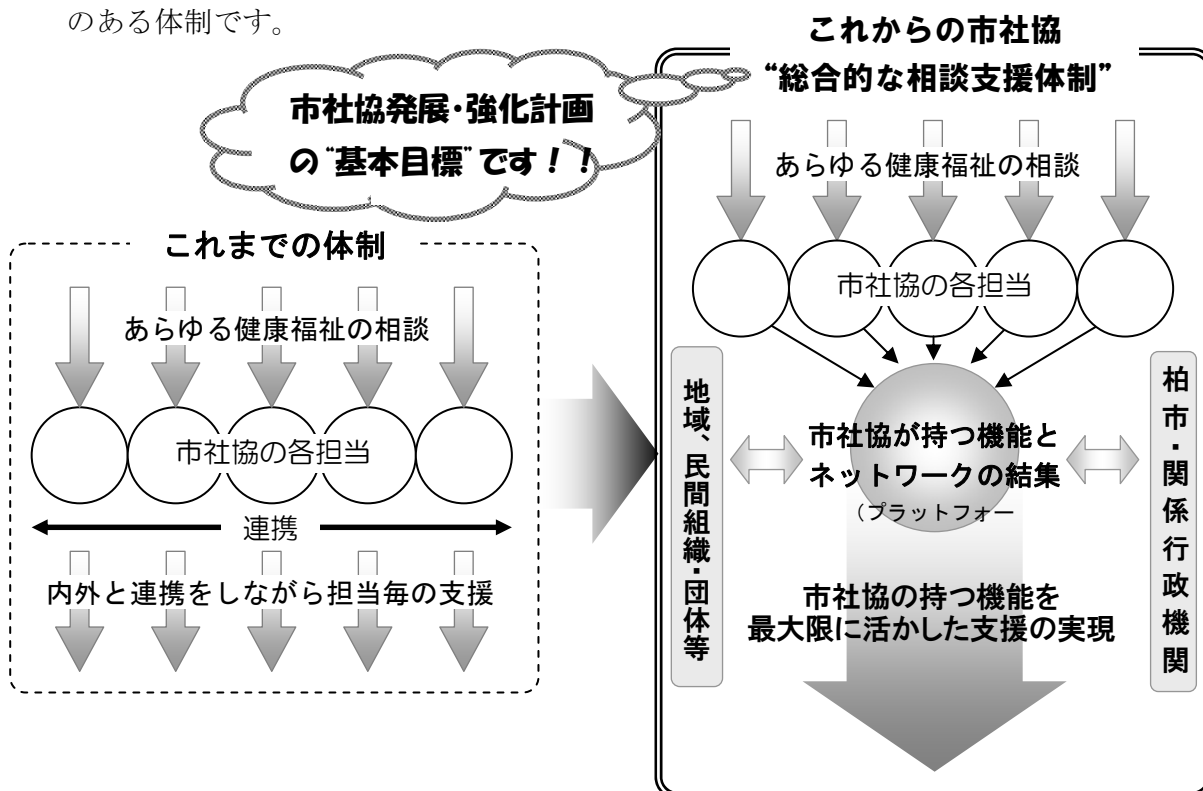
複雑多様化する健康福祉ニーズに対応するための“総合性”！

これまで市社協では、健康福祉ニーズの変化に対応して、個々の事業展開や質の向上を図ってきました。しかしながら、近年の複雑多様化した健康福祉ニーズに対して、より良い事業展開を目指すためには「総合性」が必要となっています。

例えば、従来のように、相談者である当事者を支援対象とするのではなく、その当事者の周りに存在する「家族」を支援の対象として捉え、地域や関係機関等による地域社会との協働の中で自立支援を行っていくということが考えられます。

市社協が持つ“相談”と“支援”しくみを総合性のあるものに！

すなわち、私たちが考える総合的な相談支援体制とは、市社協があらゆる事業や機能における「相談」と「支援」のしくみをより有機的に機能させることのできる「総合性」のある体制です。



総合的な相談支援体制に向けた取り組みは？
5つの“視点”と5つの“取り組み”により実現します。

総合的な相談支援体制に向けた5つの視点

- 1 生活上の問題全てを扱う、いわゆる分野を問わない総合性
- 2 ニーズの発見・把握から解決までの一連の過程をとらえる総合性
- 3 内外の関係機関や団体等を有機的につなげ地域全体で取り組む総合性
- 4 個々の生活上の問題を地域全体の課題としてとらえる総合性
- 5 顕在化しているものだけでなく、潜在化されたニーズに取り組む総合性



総合的な相談支援体制に向けた5つの取り組み

- 1 組織内部を「横につなげる」体制づくり
- 2 市社協が持つ機能を最大限に活かした相談支援の実現
- 3 あらゆるネットワークをつなげる機能の充実
- 4 総合性を実践するための職員の資質向上
- 5 情報収集・提供システムの確立



4 協働推進役として市社協はどんな取り組みをするの？

協働推進のための施策は？

市社協では、これまでの事業評価や地域のニーズにもとづき、今後３年間で優先的に取り組むことを「施策」として位置づけ、事業を展開していきます。

目標 1

健康福祉を担う「ひとづくり」「しくみづくり」をすすめます

施策 1 相談支援窓口の充実

課題 市社協が行う相談支援機能は、「相談の種類にとらわれない気軽に専門性のある窓口機能」です。しかしながら、近年求められる総合性は、単に広く相談に応じるだけでなく、「相談から解決」までを一つの支援の流れとして捉え、自立支援が行われることです。

施策 そこで、現状の市社協の相談や支援事業が持つ機能を十分に発揮することと、より身近な場所で気軽に相談が受けることができるよう、民生委員・児童委員（主任児童委員）をはじめ、関係機関等との連携により、効果的に支援を行うための体制やしくみづくりを行います。

施策 2 情報収集・提供システムの確立

課題 現在、市社協が持つ情報を必要に応じて提供しておりますが、さまざまな地域活動や福祉制度の改正などが行われている中では、より集約された情報を適切に地域へ提供していく必要があります。

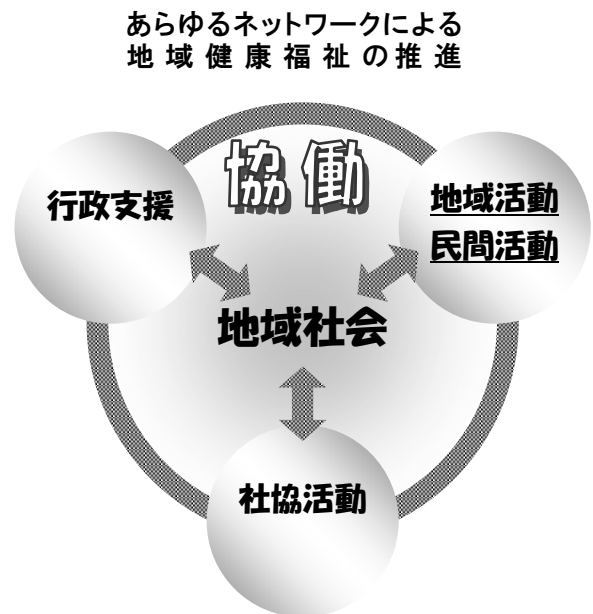
施策 そこで、市社協が持つあらゆる機能から情報を収集し、蓄積します。それらを整理し有機的に結びつけることで、地域の健康福祉活動にとって価値ある情報を提供します。また、情報の収集・蓄積・整理・提供の一連の流れをシステム化することで、情報を地域で有効的に活用できるしくみをつくります。

施策3 ネットワークによる健康福祉の推進

課題 健康福祉にかかわる組織や団体は、地域住民団体やボランティアをはじめ、NPO、当事者、施設、福祉事業所、地元商店会、企業等、地域の全ての方々が健康福祉関係者・団体といっても過言ではありません。

特に、それぞれの団体の共通課題である「担い手不足」やこれまで率先して取り組むことができていなかった「障がい者（児）」との“つながり”や“支援活動”は、あらゆる組織・団体や地域とのネットワークにより推進していく必要があります。

施策 推進にあたっては、地区別計画や民間協働推進計画による取り組みをはじめ、さまざまな「きっかけ」づくりの中から、人材・活動・情報・組織などのネットワークを強化し、高齢化による要介護にならないための早期発見や地域へ誘い出すきっかけづくり、子育て支援などの具現化をしていきます。



施策4 ボランティアセンター機能の強化・拡充

課題 ボランティアセンターでは、私たちの生活の多くの場面で「健康福祉」がかかわるとの視点から、ボランティアをはじめ、さまざまな市民活動（NPO）への支援や協働を中心に事業を展開していく必要があります。

施策 そのため、特に（仮称）市民活動支援センターについては、今後も行政をはじめ、関係機関等と積極的に調整・連携を図っていきます。

また、地区懇談会で多くの地区から出た「人材不足」の問題についても、地区社協との連携のもとに、ボランティアセンターの個人登録ボランティアや人材育成等の研修機能を活かし、これまで以上に地域住民の協働関係による「ひとづくり」を推進し、地域で暮らし続けることができる条件整備をしていきます。

施策5 民生委員児童委員協議会と老人クラブ連合会 事務局機能の充実・強化

課題 民生委員・児童委員（主任児童委員）は、地域において相談支援にあたる制度ボランティアとしての役割を担っています。しかしながら、個人情報保護については、時として連携やネットワークにおける支援活動ができにくい環境につながってしまいます。

また、老人クラブでは、これまで、相互扶助による生きがいや健康づくりによる大きな実績のある団体です。しかしながら、近年の個人主義や世代間の意識の差などから、新規会員の不足が団体としての課題となっています。

施策 以上の2つの団体事務局として、これらの課題をはじめ、今後必要とされていく子育て支援や団塊の世代への健康づくり活動などの取り組みについて、各団体が問題を抱え、解決を図るだけでなく、関係者相互の連絡調整を図り協働の中での解決や活動の取り組みを推進していけるよう、事務局機能の充実・強化を図ります。

施策6 福祉教育の充実

課題 福祉教育には、学校現場におけるものをはじめ、一般市民、企業、福祉関係の専門職など、さまざまな対象によるものがあります。

市社協では、これまでと同様に、健康福祉への理解や意識を深めるため、生涯を通じて「福祉教育」にふれることのできる場面を設ける取り組みを行っていく必要があります。

施策 市社協では、特に小中高等学校を対象とした福祉教育指定校による「学校現場での福祉教育」や幼児期からの「福祉のこころを育む」取り組みについて、充実・強化していきます。



目標2 みんなで健康づくりと生活の自立を目指します

施策7 地区社協への支援強化

課題 地区社協は、健康福祉を推進していく最も身近な地域において事業展開する地域住民組織です。その活動は、近年、健康福祉をとりまくさまざまな社会構造の変化に伴い、幅広い世代を対象として「身近な地域における助けあい支えあい」を地域で広く展開していくための活動が求められています。

施策 市社協では、これまでの側面的支援にくわえて、24の地区別計画や地区懇談会が出された意見、今後地域で必要とされる活動について、住民の健康福祉への関心と自主的な取り組みをすすめる視点による支援を強化します。



地区社協への支援強化
地区計画の推進

施策8 ニーズに適した在宅福祉サービスの展開・開発

課題 近年の在宅福祉サービスは、地域におけるボランティア活動やNPO等によるサービスなど、実にさまざまなものが生まれ、地域住民の助けあい支えあいの役割を果たしています。しかしながら、その一方でニーズがありながら開発し得ていないサービスやさまざまな事情により必要な支援を受けられない方々などの課題があります。

施策 そこで市社協では、「自立支援と社会参加」の促進の視点をふまえ、既存の在宅福祉サービスの質の向上・内容の充実とともに、新たなサービスの開発と必要なサービスが総合的・継続的・効果的に提供し、支援ができるよう体制整備します。



施策 9 介護予防の推進

課題 高齢者が健康で心豊かな生活を送っていくために、近年必要とされているものが「介護予防の視点」です。この介護予防については、平成18年度より施行の改正介護保険法の中でも重要な位置づけをされています。

施策 そこで、市社協で持つ既存の事業や地域活動を、これまでの趣旨や目的にくわえて、「介護予防」の視点を持ち、広く住民とともにやっていくことにより、多くの高齢者が健康で心豊かな生活を送ることができる地域づくりを行っていきます。



さまざまな介護予防が考えられます

施策 10 市社協の機能を最大限に活かした受託事業の展開

課題 市社協が行っている受託事業（県・県社協・市）は、地域福祉権利擁護事業をはじめ、老人福祉センター、地域福祉センター、介護予防センター、配食サービス、ファミリー・サポート・センターなど、さまざまなものがあります。

その受託事業については、これまで市社協の持つ特性を活かして事業を展開してきました。しかしながら、指定管理者制度の導入やよりよい事業展開や協働による取り組みが求められています。

施策 そこで、受託事業にあたっては、受託による効果や既存の市社協機能とのリンクなど、あらゆる点を考慮しながら受託後のイメージ（計画）を考えた後に受託し、「市社協らしい、市社協にしかできない」健康福祉事業の展開を行っていきます。

目標 3 新たな健康福祉の課題に取り組みます

施策 11 ニーズの発見・把握のしくみづくり

課題▶ 社会福祉の内外の環境変化と将来像を見極め、事業を展開していくために、まずはじめに求められるのがニーズの発見・把握です。

施策▶ 市社協では、住み慣れた地域で自立した生活を支援するために日常生活上の不都合や困難を抱えている人の「ニーズを重視」し、適切な対応をするためのニーズの発見・把握のしくみをつくります。

さまざまなニーズの発見・把握が考えられます



施策 12 災害時における対応の整備

課題▶ 地震、台風などの自然災害時において求められる市社協の役割は、災害ボランティアセンターの立ち上げをはじめ、救援・復旧に向けた住民やボランティアの活動を支援するためのコーディネート機能です。

また、いつ何時に起こるか分からない自然災害に備えて、職員間でのシミュレーションや体制整備、地域での災害支援ネットワークへの支援、行政や災害救援ボランティア団体等との連携関係の構築についても求められます。

施策▶ 市社協では、これら災害時への取り組みを急務なこととしてとらえ、対応の整備を行うとともに、個人情報に配慮した災害時における要援護者の把握に努めます。

5 協働推進役としての市社協の体制は？

市社協の経営基盤強化のための施策は？

経営基盤の強化・発展のために7つの施策に取り組みます。

健康福祉課題の解決には体制整備やしきみづくりが必要！

地域住民が、地域で「どのように暮らしたいのか」、「どのような地域にしたいのか」という思いが健康福祉の原点となります。また、個人や集団及び地域住民全体の具体的なニーズに応え、それぞれの生活を支え、健康福祉課題の解決を図るために、さまざまな体制の整備やしきみづくりが必要となります。

健康福祉の実現は地域、民間組織・団体等、行政との協働で！

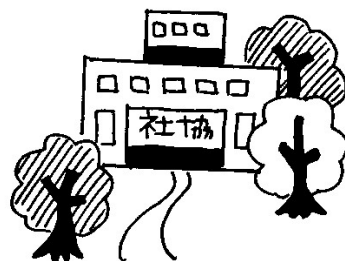
当然、地域における健康福祉は市社協だけで実現できるものではありません。地域、民間組織・団体等、行政との連携や協働によって実現が可能となるものです。

連携や協働を視点に置いた市社協の経営基盤の強化・発展をします！

そこで、連携や協働を視点に置きながら、今後の市社協の経営基盤を強化・発展させるため、次の施策に取り組みます。

経営基盤の強化・発展（7つの施策）

- 1 市社協の位置づけの明確化と周知
- 2 会員の理解と協力を得ること
- 3 地域住民から信頼される組織体制の構築
- 4 安定的な財務運営
- 5 事務所の確保
- 6 職員体制と専門性の確保
- 7 組織（法人）管理体制の確立



施策1 市社協の位置づけの明確化と周知

課題 ▶ これまで市社協は、常に時代の流れや住民ニーズの変化に伴い、地域とともに、さまざまな健康福祉活動を展開してきました。

しかしながら、近年の社会情勢の変化は、これまでになく急速な変化をしており、さらなる地域や関係機関との協働による健康福祉の推進が必要とされています。

施策 ▶ 現在、各種ボランティア団体やNPO法人等をはじめ、さまざまな市民活動組織が誕生し、多様な健康福祉サービスの提供体制が地域内にできている中で、改めて、市社協が「健康福祉の推進役」としての役割と事業方針について理解・協力を得るための明確な位置づけを行い、あらゆる手法による周知を行っていきます。

施策2 会員の理解と協力を得ること

課題 ▶ 市社協は、地域住民をはじめ、健康福祉の推進に参加・協働する地域のあらゆる組織・団体等によって成り立っています。特に会員の理解と協力については、さまざまな場面での啓発やPR活動を実施していますが、更に多くの方々に健康福祉活動の重要性の理解を得るためにも、継続的に取り組まなければならない課題です。

施策 ▶ そこで、改めて会員組織であることの認識や、会員の理解と協力が必要な理由を明確にし、会員の市社協活動への参加や会員からの意見を聞くしくみづくり、更に、説明責任や会員の増強に努めます。

施策3 地域住民から信頼される組織体制の構築

課題 ▶ 市社協は、公共性の高い民間組織として、主体的な経営判断を行い、地域住民にひらかれた（分かりやすい）組織体制を確立し、健康福祉をすすめる団体として地域住民から信頼される組織づくりが求められます。

施策 ▶ そのために、事業の実施における意思決定や事業執行に責任を負う理事会等の役員体制強化を図るために、経営の考え方や意識・動機づけとともに、地域住民やさまざまな団体の参画や協力を得るなどにより、多くの意見を反映できるしくみづくりを行います。

施策4 安定的な財務運営

課題▶ 市社協の財源は、会員会費をはじめ、寄付金、共同募金配分金、補助・委託金等で成り立っています。近年の不況下の一方で、今後必要な活動は数多くあります。

施策▶ このような中で、市社協では、継続的に安定した財務運営をするために、事業評価やコスト把握のうえに立った中長期的な財政計画や公費・自主財源の確保などを行っていきます。

施策5 事務所の確保

課題▶ 市社協の事務所は、現在3箇所あります。今後、事務所の場所及び事業展開や行政の施策とともに随時見直していくことが考えられます。

施策▶ このような中で、市社協が健康福祉の推進役として最大限にその機能が果たせるよう、拠点事務所の確保をしていきます。

施策6 職員体制と専門性の確保

課題▶ 複雑多様化する健康福祉ニーズに対する、地域を主体とした健康福祉施策の展開を実行していく中で、職員体制と専門性の確保は不可欠な要素となります。

施策▶ 市社協では、事業を推進するために必要な専任職員の確保とより高度な健康福祉の専門性の確保のため、研修体系の確立並びに資格取得の支援について取り組みます。更に、その能力を組織的に発揮できる体制を確立していきます。

施策7 組織（法人）管理体制の確立

課題▶ 市社協は、社会的な責任をもつ社会福祉法人として、適正な組織（法人）管理体制が求められます。

施策▶ 市社協では、法令遵守、適切な財務管理、サービス利用者に対する権利の保護、財務諸表や事業内容の情報公開、個人情報保護、リスクマネジメントなどの組織管理、更には住民の満足度や充実度を視点とした事務・事業評価を実施するなど、他の社会福祉法人の見本となるような管理体制を確立するための取り組みを行います。

組織運営はどうするの？

次の４つの視点を重視した組織運営を行います。

市社協は、「社会福祉を目的とする事業を経営する者」と「社会福祉に関する活動を行う者」が参加する公益性の高い非営利・民間の福祉団体として、その使命と経営理念を実現するために、以下のような視点を重視した組織運営を行います。

組織運営の４つの視点

- 1 地域にひらかれた組織として、運営の透明性と中立性、公正さの確保を図るとともに、情報公開や説明責任を果たします。
- 2 事業の展開にあたって、住民参加の徹底と職員の専門性を促進します。
- 3 事業の効果測定やコスト把握などの事業評価を適切に行い、効果的で効率的な自立した経営を行います。
- 4 全ての役職員は、高潔な倫理を保持し、法令を遵守します。

組織として事業にどう取り組むの？

次の各部門の役割をもとに事業の推進体制を確立します。

市社協は、地域住民の個々のニーズに応え個々の生活を支えること、地域の健康福祉課題の解決を図ることを目的に、必要な情報を収集し、そのニーズに必要なサービスを検討し、地域や多様な組織・団体等と連携・協働しながら事業展開をします。

部 門

取り組む主な事業

法人運営部門

適切な法人運営や事業経営を行うとともに、総合的な企画や各部門間の調整などを行い、市社協事業全体の管理（マネジメント）業務や総合的かつ計画的な事業の執行にあたります。

☆組織運営（理事会・評議員会・監事会・会員増強等）

☆財務管理

☆人事管理

☆総合的な企画や各部門間の調整

地域健康福祉活動部門

地域住民や多様な組織・団体等との連携・協働により、地域の実情や社会情勢（介護予防・健康づくり等）に合致した健康福祉のまちづくりを展開し、計画的、総合的に地域における健康福祉活動の推進に取り組みます。また、住民参加や協働による助けあい支えあいのところを育む事業を展開し、地域における健康福祉活動推進の中核的な役割を果たします。

☆地域健康福祉活動計画の推進

☆地区社協への支援

☆ボランティア活動や市民活動支援事業

☆福祉教育の推進

☆介護予防事業

☆団体事務局（民生委員児童委員協議会・老人クラブ連合会ほか）

☆施設管理・経営（老人福祉センターほか）

健康福祉サービス利用支援部門

健康福祉サービス利用者や地域住民の立場に立ち、安心して必要な健康福祉サービスの利用ができるための援助や地域での自立生活支援に向けた相談支援活動、多様な社会資源の情報提供・連絡調整を行います。

☆総合相談事業

☆福祉サービス利用援助事業

☆資金貸付事業

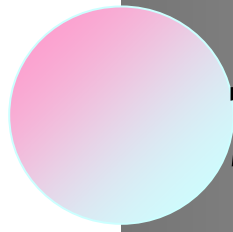
在宅福祉サービス部門

住民参加型有償サービスをはじめ、多様なニーズに応じた在宅福祉サービスを提供します。利用者の立場に立った高品質なサービスの提供に努め、サービスを通じて地域の健康福祉課題を把握し、新たなサービスの開発につながるなど、地域の健康福祉サービス水準の向上につながる市社協らしい事業運営に努めます。

☆在宅福祉サービス事業

☆かしわ・ファミリー・サポート事業

☆配食サービス事業



第4章

計画の推進にあたって

1. 計画のすすめ方は？
2. 次のステップはどうなるの？

第4章 計画の推進にあたって

1 計画のすすめ方は？

「計画」「実行」「評価」「見直し」という流れ（PDCAサイクル）の中で、みんなで協働してすすめます。

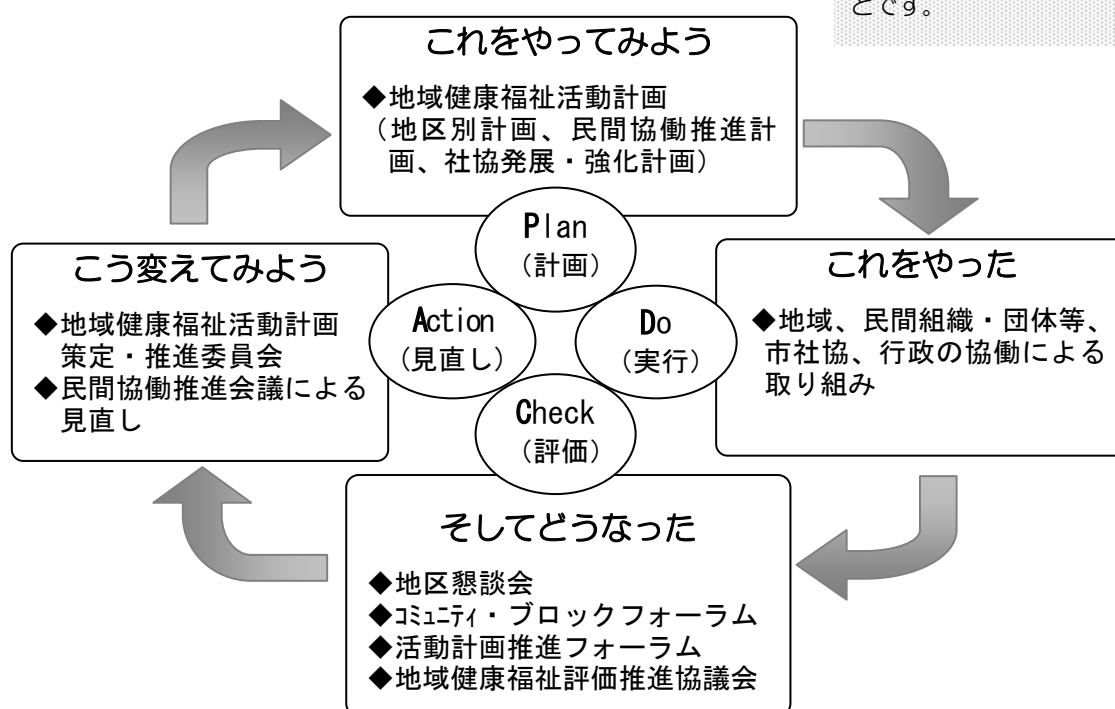
地域健康福祉活動計画（民間計画）を「絵に描いた餅」にしないために、計画づくりに関わった地域や民間団体の方々をはじめ、市内で活動されるあらゆる人々、市社協や行政の関係者、そして地域住民みんなが、サービスの受け手・送り手という考えを取り払い、「助けあい」「支えあい」の精神のもとで、その推進の役割を担うことが重要です。

そのために、これからみんなで「どんなことが必要で、何ができるか」ということを考えてみます。

まず、地域健康福祉活動計画（民間計画）を継続的に推進していくために、PDCAサイクル（※）を取り入れていきます。（P）計画の詳細は第1章から第3章でとりあげています。（D）実行は、「計画のあらまし」で掲げた理想にもとづき協働によりすすめます。

この章では、「（C）評価」と「（A）見直し」について具体的な内容を取りあげます。

（※）PDCAサイクルとは、計画(Plan)をたて、それを実行(Do)し、実行の結果を評価(Check)して更に、計画の見直し(Action)を行うという一連の流れをシステムとしてすすめていくことです。



評価の方法は？

地域や民間活動を中心とした協働を目指すこの計画では、第三者評価とともに、自己評価と相互評価が大切です。

着実に継続的な計画をすすめるために、評価の方法を明確にしておくことが大切です。さまざまな活動主体が、互いに協働していくことを目指すこの計画では、活動の評価においても、第三者評価とともに、自己評価と相互評価が大切です。

自ら策定した行動計画を自ら評価し、その結果を公表し、それを各活動主体が互いに理解することで、更に協働がすすむ効果が期待できます。

そのためには、各活動主体が一堂に会して互いの行動計画の評価を公表し、協働を模索する場の設定も必要になります。

そこで、ここでは今後の取り組みを「案」としてとりあげ、関係者の今後の取り組みに期待するものです。

具体案としては、平成17年度で終了した「ふれあいのまちづくり事業推進研修会」を「(仮称) 地域健康福祉活動計画推進フォーラム」に移行し、新たに市内3ブロック・コミュニティによる「コミュニティ・ブロックフォーラム」の創設、また、地区別計画づくりで行った全24地区社協エリアの「地区懇談会」を継承し、下記により活動計画の進行管理と評価を行うものです。

(仮称) 地域健康福祉活動計画推進フォーラムの開催

計画推進フォーラム（市全域）は、各活動主体が構成員となる実行委員会によって運営されます。

各活動主体が自らの活動計画とその計画にもとづく活動の実績を点検した結果を公表する場とし、計画の最終年度に開催します。

そうした公表を通して活動主体同士が交流し、活動を理解し合い、お互いに足りない部分を補い合うことが可能となり、互いの協働の関係づくりが一層深まることを目指します。

(仮称) コミュニティ・ブロックフォーラムの開催

コミュニティ・ブロックフォーラムは、市の北部・中部・南部の各地域の住民や地域団体、NPOや事業所などで健康福祉活動する人々が集まり、情報交換の場、新たな協働が生まれる場として、年1回開催します。

(仮称)地区懇談会の開催

地区懇談会は、各地区の住民や地域団体、学校やさまざまな活動グループの方々が集まり、24地区社協エリア毎に自由に話し合う場として設定します。

運営は、地区社協が主体となり、市社協がサポートします。

地区懇談会は、年2回程度開催し、地区別計画の策定について検討する場であるとともに、地区別計画の評価を行う場でもあり、地区内の連携・協力関係が生まれる場です。

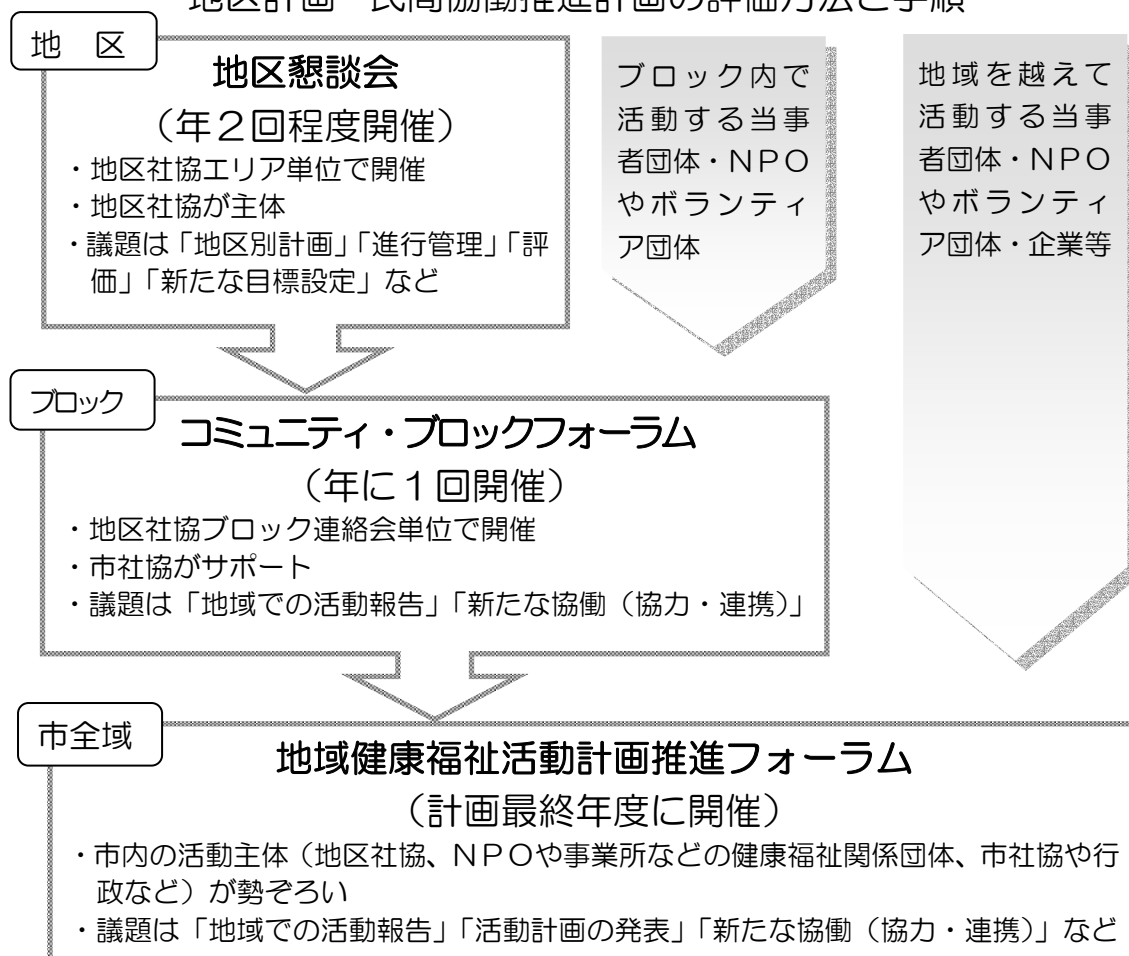
地区懇談会の結果は、コミュニティ・ブロックフォーラムと計画推進フォーラムで発表することとし、各地区同士や市全域で活動する団体等との連携・交流を図ります。

第三者評価の推進

地域健康福祉活動計画（民間計画）の推進にあたっては、地域健康福祉評価推進協議会による第三者評価を実施します。

特に市社協発展・強化計画については、同理事会と評議員会による内部評価とともに、地域や民間活動への市社協の支援内容の詳細を第三者評価に委ねます。

地区計画・民間協働推進計画の評価方法と手順



※「柏市地域健康福祉評価推進協議会」による第三者評価を実施。

見直しの方法は？

自己評価・相互評価の結果をふまえて、(仮称)地域健康福祉活動計画策定・推進委員会が最終見直しを行います。

計画の見直しは、継続的に進化していくために必要な取り組みです。

計画段階では予想できなかったこと、うまくいかなかったことの反省、新たな協働を盛り込んだ活動など、随時取り込むことによりいつも新しく、いきいきとした計画になります。

この計画の期間は、地域健康福祉計画（行政計画）の最終年度にあわせ、平成20年度までの3年間ですが、同計画との整合性を図り、より積極的な協働を推進するため、計画初年度からの見直しを行います。

地区別計画・民間協働推進計画の見直し

地域・民間団体の協働に向けた継続的な取り組みをすすめるため、年1回開催される「(仮称)コミュニティ・ブロックフォーラム」と年2回程度開催される「(仮称)地区懇談会」で、地区別計画と民間協働推進計画による取り組み実績の評価を行うとともに、それぞれの計画の見直しを行います。

特に、民間協働推進計画の評価と見直しでは、ボランティアやNPO法人、事業所や活動団体など、市内の健康福祉活動関係団体による(仮称)民間協働推進会議(※1)を設置し、その推進に努めます。

地域健康福祉活動計画（民間計画）全体の見直し

これら毎年行われる評価をふまえ、(仮称)地域健康福祉活動計画策定・推進委員会(※2)では、市社協発展・強化計画を含めた地域健康福祉活動計画（民間計画）の進捗状況の把握と見直しへの提言を行い、住民に公開します。

また、同計画は、計画最終年度に行われる計画推進フォーラムによる評価をふまえ、計画全体の見直しを行い、住民に公開します。

※1 (仮称) 民間協働推進会議

同計画策定に先立ち行われた動向調査に参加し、地域の健康福祉のネットワークづくりに賛同する市内の各種団体や企業で構成された連絡調整会議。

※2 (仮称) 地域健康福祉活動計画策定・推進委員会

計画の策定を行った「ふれあいのまちづくり推進会（計画策定委員会）」の再編による同計画の進行管理並びに評価を継続的に行うための住民組織。年4回程度の会議を実施する。

2 次のステップは？

計画のテーマとなった「活動目標や指針の作成、協働の可能性や発見」から、地域と民間（市社協を含む）そして行政が一体となった具体的な取り組みや活動がスタートします。

地域健康福祉活動計画（民間計画）は、市社協が中心となり、地域や他の民間団体と協力して策定しています。そのねらいは、協働をテーマに現在の活動を基本から問い直し、あらためて活動や事業の体系づくりに取り組み、住民・団体の新たな連携活動をすすめることで、協働による健康福祉のまちづくりのしくみを見い出すものです。

地域活動は

地区社協が、プラットフォームの役割を担っていきます。

民間活動は

市社協が、プラットフォームのしかけを模索し、民間活動を支援していきます。

市社協は

市社協自らが、プラットフォームとなることを目指します。

また、地域や他の民間組織・団体等によるプラットフォームのしくみづくりへの支援・ノウハウの提供をしていきます。

その他、次期計画の策定に向けた重要事務事業として、下記の項目に取り組みます。

- インターネットによる活動計画評価システムの構築と活用
- 行政&民間計画の合同策定検討会の設置

次期計画は

このような取り組みをふまえて、次期計画（平成21年～25年）は、民間計画と行政計画が一体となり、健康福祉のまちづくりをみんなの思いとして定着させる具体的な取り組みを位置づけるものにしたいと考えています。（協働の具現化）

そして3年後・・・

みんなの夢がひとつになる！





資料



1. 計画策定の経緯
2. 計画策定委員会委員一覧
3. 別冊資料の活用方法

1

計画策定の経緯

地域健康福祉計画（行政計画）の策定をふまえた、地域における健康福祉のしくみづくりや実践活動が、モデル地区の取り組みを通して平成 15 年度から展開されています。

この取り組みをもとに、平成 17 年度から、市全域を対象にした地区別計画づくりが進められ、併せて「民間における協働の推進」と「市社協の発展・強化」の考え方を盛り込んだ「地域健康福祉活動計画（民間計画）」が策定されました。

年	月	計画策定に関わるモデル地区の取り組み	
		西原地区	南部地区
15	6	第 1 回西原地域ふれあい研修会の開催 ・地域づくり懇談会（グループワーク）、まちづくり講演会ほか	南部地区保健福祉関係者懇談会の開催 ・地域づくり懇談会（グループワーク）ほか
	8		
16	1	市民まちづくり講座の開催	地域福祉懇談会の開催 ・地区社協活動に関する町会関係者への説明 モデル地区住民との懇談会の開催 ・地区社協役員による意見交換 モデル地区住民との懇談会の開催 ・障がい者団体等による意見交換 南部地区懇談会の開催 ・町会単位のグループワーク
	4	計画策定のための地区懇談会の開催	
	5		
	6		
	9	第 2 回西原地域ふれあい研修会の開催 ・活動事例発表・地域づくり懇談会ほか	
	10		福祉講座の開催 ・活動事例報告ほか
17	1	西原地区民児協と健康づくり合同会議の開催 ・地域づくり懇談会ほか	南部地区ヒアリングの実施 ・中学生、子ども会、介護者、老人クラブ、障がい者へのグループインタビュー 南部地区懇談会の開催 ・活動事例報告、グループワークほか
	2	西原地区ヒアリングの実施 ・中学生、子ども会、介護者、老人クラブ、障がい者へのグループインタビュー	
	3	第 3 回西原地域ふれあい研修会の開催 ・活動事例報告、地域づくり懇談会ほか	
		 <div> <p>◆実践活動の展開</p> <p>研修会や懇談会を通して、身近な町会単位での健康福祉活動が展開されました。</p> <p>◇世代間交流、高齢者のふれあいの場づくり、町会単位の健康福祉活動など</p> </div>	 <div> <p>◆実践活動の展開</p> <p>懇談会を通して、身近な町会単位や地区社協での健康福祉活動が展開されました。</p> <p>◇ふれあいサロン、日常生活支援、防犯、声かけ・見守り、世代間交流など</p> <p>◇ふれあい喫茶</p> </div>
	2~3 月	全市域対象「地域福祉関係者アンケート」の実施 旧柏市地区社協（19 地区）の運営委員を対象にした地域健康福祉活動の現状把握と課題の抽出。 ※平成 17 年 3 月 28 日に、柏市と沼南町が合併し、地区社協が 24 地区となっている。	

年	月	計画策定の経緯
17	6	地域健康福祉活動計画策定委員会の設置 ・ふれあいのまちづくり推進会において趣旨説明を行い、同会を計画策定委員会に移行。 地区懇談会の共催を地区社協連絡会議で依頼 ・地区のまとめ役として、24 地区社協に共催を依頼。
	7	「地区懇談会」に関する第 1 回関係各課調整会議の開催 地区懇談会の開始 ・24 地区社協エリア（モデル 2 地区は活動報告をもとにヒアリング）で、各地区計 4 回を目標に懇談会がスタート。
	8	第 2 回地域健康福祉活動計画策定委員会の開催 「地区懇談会」に関するワークショップ職員研修会の開催
	9	「地区懇談会」に関する第 2 回行政連絡調整会議の開催
	10	第 3 回地域健康福祉活動計画策定委員会の開催 「地区懇談会」に関する保健福祉総務課との連絡調整会議の開催 地区懇談会の開催状況を地区社協連絡会議で報告
		民間協働推進計画策定のための「民間活動に関する地域健康福祉活動調査」の実施 ・10 月～11 月に、市内 582 団体にアンケート（業種別）を送付
	11	「地区懇談会」に関する第 3 回行政連絡調整会議の開催
	12	ふれあいのまちづくり事業推進研修会で計画の策定状況を PR 市社協発展・強化計画策定のための市社協担当ヒアリングの実施
18	1	第 4 回地域健康福祉活動計画策定委員会の開催 「計画素案」に関する第 4 回行政連絡調整会議の開催
	2	第 5 回地域健康福祉活動計画策定委員会の開催 「計画素案」を地区社協連絡会議で報告 「計画素案」に関する市社協理事会専門委員会の開催
	3	地区懇談会の終了 ・24 地区社協エリア（モデル 2 地区は活動報告をもとにヒアリング）で行われた懇談内容の最終確認が終了。 「計画素案」に関する市社協評議員会専門委員会の開催 「計画成案」に関する第 5 回行政連絡調整会議の開催
		第 6 回柏市地域健康福祉活動計画策定委員会の開催 市社協理事会で承認 市社協評議員会で承認

計画策定スケジュール

項目 年月		理事会・ 評議員会	計画策定委員会		作業部会	行政連絡会	地区懇談会
17 年	6月		第1回	提案	課題の抽出 ↓		現況調査 ↓
	7月	報告				調整	
	8月		第2回	課題整理	課題の整理・分析 ↓		24地区別懇談 会（モデル2地 区はヒアリング でまとめ） ↓
	9月	報告				調整	
	10月		第3回	基本・指針			
	11月					調整	
	12月				素案づくり ↓		
18 年	1月	報告	第4回	素案検討		調整	
	2月	報告	第5回	素案検討	成案づくり ↓		
	3月	承認	第6回	最終確認	印刷製本 ↓	最終調整	活動指針作成

● 地区懇談会の開催結果一覧

※参加者人数は、地域住民、市社協・行政職員の総数

NO	地区名	第1回	参加者	第2回	参加者	第3回	参加者	第4回	参加者
		(課題の発見)		(課題の解決方法)		(活動の指針)		(まとめ)	
1	柏中央地区	8月4日	15	9月28日	23	10月31日	18	2月8日	10
2	新田原地区	8月8日	15	9月7日	30	10月26日	25	1月18日	13
3	永楽台地区	7月29日	16	10月12日	31	11月12日	30	2月22日	12
4	富里地区	7月29日	16	8月29日	23	10月8日	21	12月10日	16
5	豊四季台西地区	9月8日	12	11月9日	21	12月6日	24	2月13日	13
6	豊四季台地区	7月28日	19	9月20日	32	10月6日	31	2月9日	14
7	旭町地区	8月10日	13	9月26日	21	11月29日	18	1月23日	12
8	新富地区	7月29日	18	9月3日	35	9月26日	29	2月23日	15
9	高田地区	8月27日	15	9月17日	22	12月10日	21	2月19日	11
10	松葉地区	9月10日	16	9月24日	30	11月5日	20	2月25日	9
11	田中地区	8月6日	17	9月17日	28	11月12日	22	2月12日	10
12	西原地区	平成15～16年度のモデル地区として実施済。							
13	富勢地区	7月26日	17	8月30日	37	9月29日	31	10月27日	14
14	土地地区	7月29日	19	9月30日	39	11月24日	30	1月18日	14
15	藤心地区	7月31日	19	9月11日	34	10月23日	28	1月22日	15
16	光ヶ丘地区	7月24日	16	9月28日	26	12月26日	27	2月10日	11
17	南光ヶ丘地区	8月20日	15	11月23日	36	1月29日	26	3月12日	11
18	酒井根地区	8月5日	17	9月18日	24	11月30日	26	2月22日	11
19	南部地区	平成15～16年度のモデル地区として実施済。							
20	大津ヶ丘地区	8月21日	16	10月3日	31	11月2日	26	2月1日	13
21	風早北部地区	7月29日	16	9月8日	32	11月14日	16	2月21日	12
22	風早南部地区	8月6日	13	9月3日	25	9月17日	16	1月28日	11
23	高柳地区	8月6日	18	10月1日	24	12月3日	27	1月28日	13
24	手賀地区	9月28日	15	10月25日	33	11月22日	31	2月21日	10



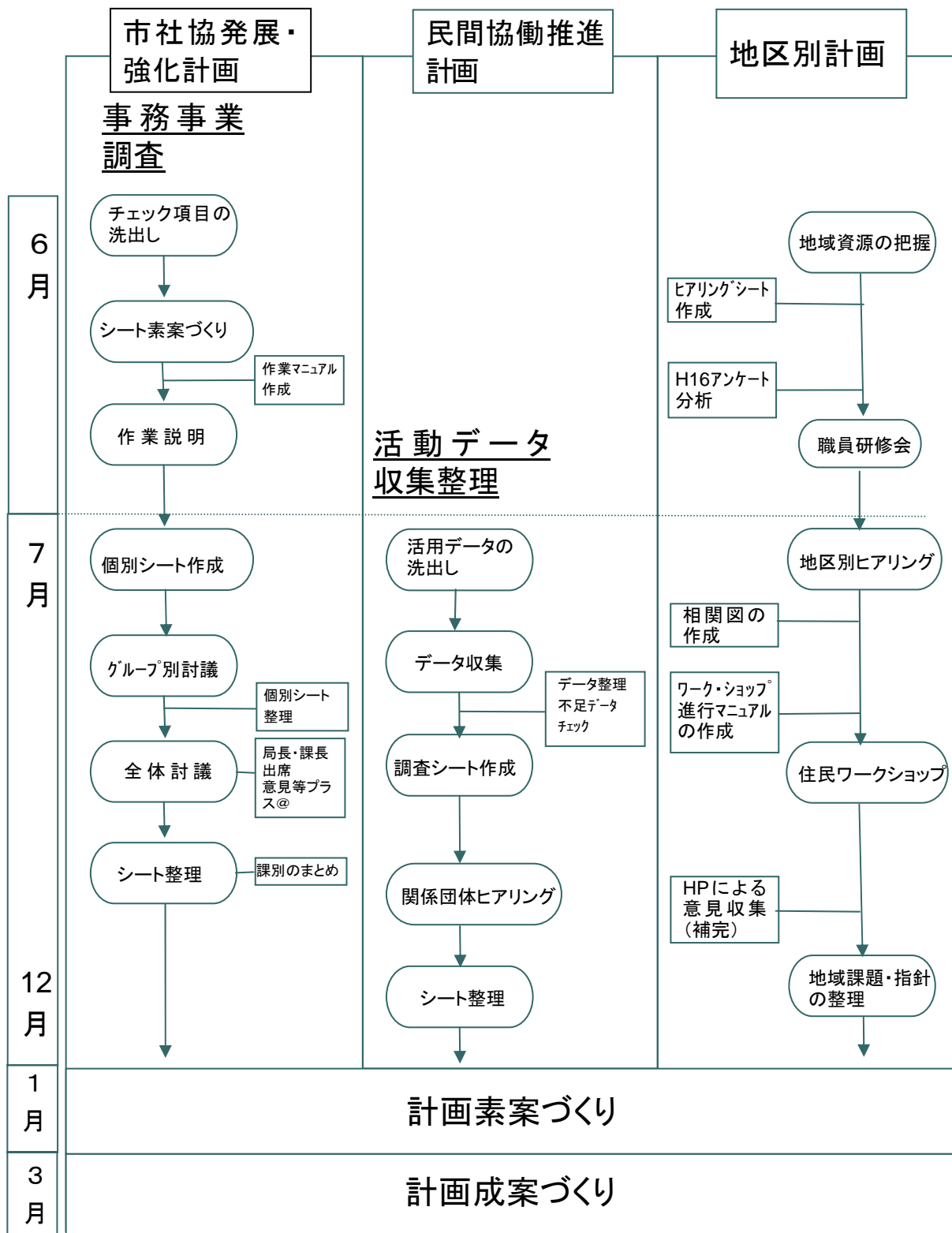
1回目と4回目の懇談会の様子



2回目と3回目は、グループ毎にワークショップ！



● 基礎データ作成の流れ



2

柏市地域健康福祉活動計画策定委員会

委員一覧

委員長：満 島 正 子 副委員長：森 佐 知 子

平成17年6月10日現在

No.	氏 名	選 出 区 分	主体別計画ワーキング・グループ
1	野 口 精 治	西原地区社会福祉協議会	地区別計画
2	川 口 茂 春	新富地区社会福祉協議会	市社協発展・強化計画
3	佐 藤 幸 記	南部地区社会福祉協議会	地区別計画
4	平 井 加代子	アイリス新柏在宅介護支援センター	市社協発展・強化計画
5	森 佐知子	柏市ボランティア連絡協議会	地区別計画
6	森 橋 留 吉	柏市老人クラブ連合会	民間協働推進計画
7	満 島 正 子	学識経験者	民間協働推進計画
8	米 本 眞 子	柏市民生委員児童委員協議会	地区別計画
9	西 堀 雄 一	柏市青少年相談員連絡協議会	地区別計画
10	妹 尾 桂 子	柏市民健康づくり推進員連絡協議会	市社協発展・強化計画
11	坂 本 る み	(株)ルミテック	市社協発展・強化計画
12	西 脇 理知子	柏市肢体不自由児(者)を育てる会	民間協働推進計画
13	猪 早 恵美子	NPO 法人「笑実里」	民間協働推進計画
14	鈴 木 五 郎	国際医療福祉大学	市社協発展・強化計画
15	花 香 健 司	柏市立高柳中学校	民間協働推進計画
16	野 口 俊 信	NPO 法人「いしずえ」	民間協働推進計画
17	笠 松 廣 章	柏市市民活動推進課	地区別計画

※敬称略、順不同

3 別冊資料の活用方法

こんなときに使ってもらえたら・・・

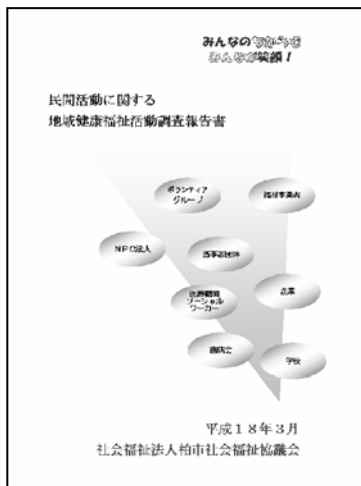
◆地区別計画書



地区別計画は、24地区社協エリアで健康福祉活動をすすめる住民みんなの行動計画です。地区の課題をふまえた今後3年間の地区毎の目標が描かれています。

- 地区社協で・・・町会・自治会・区等で・・・地区別計画を参考にできることからはじめよう！
- 地区活動マップは、毎年更新！
地域活動の情報ツールとして・・・
- 福祉施設や社会貢献を考える企業の方々と地域とのつながりをもつきっかけづくりに・・・

◆民間活動に関する地域健康福祉活動調査報告書



「民間活動に関する地域健康福祉活動調査報告書」は、調査を行った団体の種別ごとに、いただいた意見から、現状、課題をまとめています。

- 「私はこの活動向いてないのかなあ？」と思ったとき
- 「世の中もっと変わらなくちゃ？けど、こんなことを考えているのは自分だけかなあ」と思ったとき
- 「頑張ってきた活動をもっと広げたい」と思ったとき
- 「どうして周りは理解してくれないんだろう？」と思ったとき

計画書や報告書を見て、こんな意見や考え方を持っているところと「一緒に活動したい！」
「こんな情報もあるのに！」と思ったら、市社協に連絡してください。
みんなで協働の場「プラットフォーム」を広げていきましょう。

柏市地域健康福祉活動計画

- 発 行 平成18年3月
企画制作 柏市地域健康福祉活動計画策定委員会
(柏市社会福祉協議会ふれあいのまちづくり推進会)
- 制作協力 特定非営利活動法人 日本環境倶楽部
〒201-0014 東京都狛江市東和泉 4-3-3-102
TEL 03-5438-6340 FAX 03-5438-6341
<http://www.mmjp.or.jp/kankyoclub>
- 編集発行 社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
〒277-0005 千葉県柏市柏 5-11-8 いきいきプラザ
TEL 04-7163-9001 FAX 04-7163-9199 (地域福祉課内)
<http://www.kashiwa-shakyo.or.jp>
-
-